

東京都立富士高等学校創立90周年
東京都立富士高等学校附属中学校開校

記念誌



平成22年11月9日

創立90周年・附属中学校開校 記念誌



東京都立富士高等学校
 東京都立富士高等学校附属中学校

校 歌

作詞 鯨井 允子
 作曲 西岡 光男

Moderato

mf

ゆ た かな る む ー さ り の お か に わ か た け
 ふ た し が な ね を み ー さ り の お か に わ か た け

dim. *mp*

の ー み ど り し た た ー り ま お ど に す ら に ね ー
 は ー み ど り し た た ー り ま お ど に す ら に ね ー

mf cresc. *f*

い ほ う ふ じ は か が ー や け る き ぼ う に み て ー り
 お も の び ゆ く あ が ー や け る き ぼ う に み て ー り

p *cresc.* *mf* *cresc.*

こ の お か は じ ゆ う の て ん ち あ け こ が れ と り そ う に も え
 こ の お か は じ ゆ う の て ん ち あ け こ が れ と り そ う に も え

ff *poco dim.* *mp*

て わ こ ー ど の つ き ど う つ き ど う ま な び ー や あ
 て わ こ ー ど の つ き ど う つ き ど う ま な び ー や あ

cresc. *mf*

し た ら し き せ け ン せ い の け ン せ い つ の き そ て の ん ふ
 し た ら し き せ け ン せ い の け ン せ い つ の き そ て の ん ふ

じ ふ じ は え あ ー れ と わ に は え あ ー れ

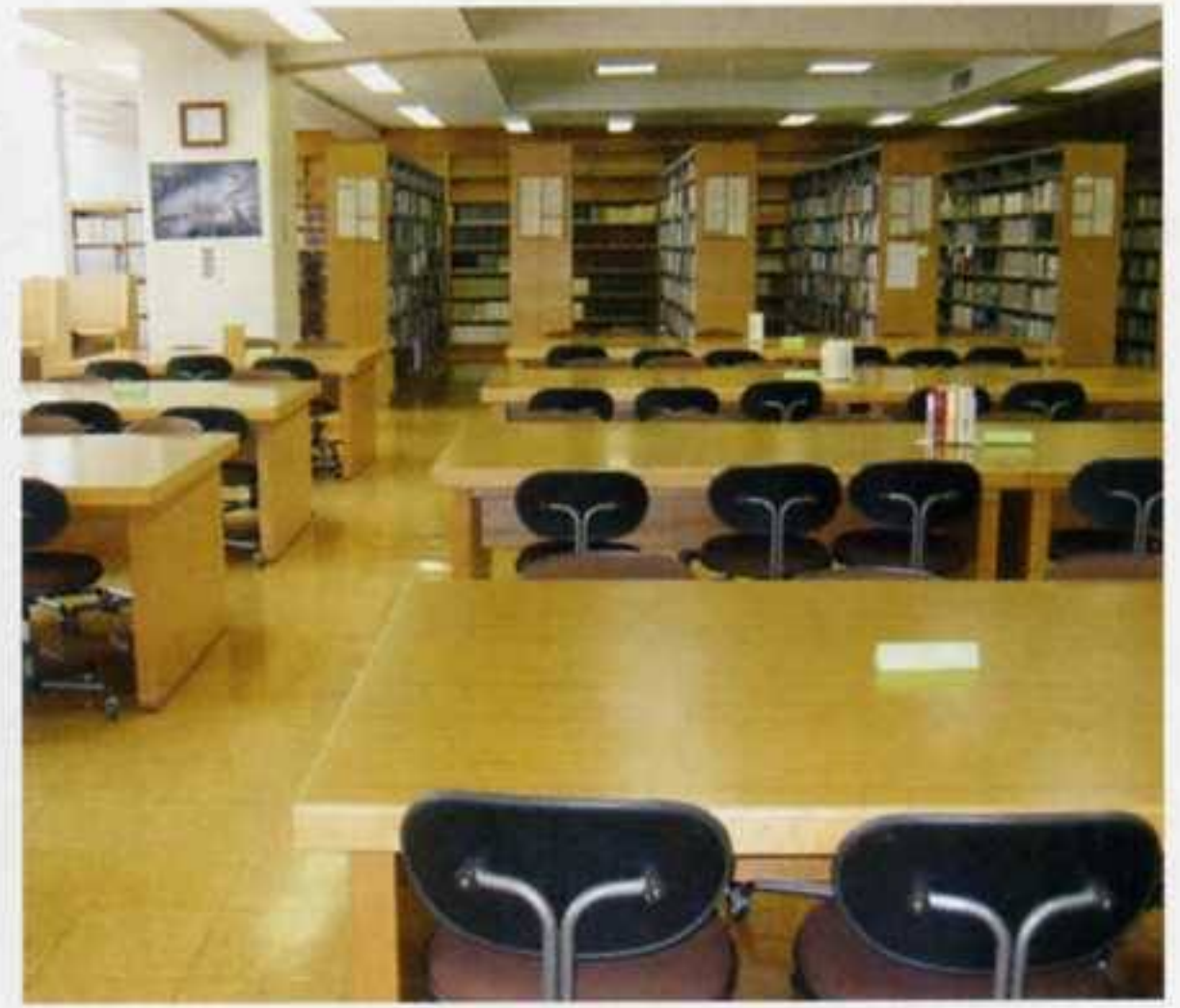
校 歌

鯨井 允子 作詞
 西岡 光男 作曲

一、豊かなる武蔵の丘に
 若竹の緑したたり
 窓に澄む霊峰富士は
 輝ける希望に満てり
 この丘は自由の天地
 あこがれと理想に燃えて
 若人のつどう学び舎
 明日への建設の園
 富士 富士 栄あれ
 永遠に栄あれ

二、富士が峯を見るこの丘に
 若竹はかく伸び来たり
 大空に尚も伸びゆき
 新たなる力に満てり
 この丘は平和の天地
 健康と夢にあふれて
 若人の競う学び舎
 新しき世界の起点
 富士 富士 栄あれ
 永遠に栄あれ

現在の富士高・中











目次

写真 1

校歌	2
現在の富士	3

創立 90 周年・附属中学校開校によせて 9

校長	久永 哲雄	10
若竹会会長	谷畑 充	12
父母と先生の会会長	齋藤 昌夫	13
前生徒会長	福嶋 雅和	15
第 16 代校長	氏家 武彦	16
第 17 代校長	高井 宣昭	16
第 18 代校長	佐治 恒孝	17
第 19 代校長	藤井 正俊	18
元教頭	星野 喜代美	18
前副校長	小林 淑訓	19
前定時制副校長	宮澤 良美	19
旧職員	江藤 豊	20
旧職員	高橋 靖子	20
旧職員	金井 克明	21
峯島喜代について	峯島 茂兵衛	22

現在の富士の取り組み 23

教務部	松室 重男	24
生徒部	栞原 信一郎	26
進路部	細田 盛夫	32
附属中学校		38

この 10 年の歩み 41

資料編 47

沿革史	48
10 年の教職員在籍一覧	50

創立90周年・附属中学校開校によせて



創立 90 周年、 附属中学校開校を記念して



統括校長 久永 哲雄

伝統が際立つ富士高等学校はここに創立90周年を迎えることになりました。また、同時に富士高等学校附属中学校が開校し、都立中高一貫教育校として新しいスタートを切ることになりました。その間本校発展のために尽くされた歴代の学校長をはじめ教職員の方々、ならびに卒業生の皆様及び東京都教育委員会等多くの関係者の皆様に、本校教育の充実・発展のために多大なご尽力をいただきました。ここに、そのご指導とご支援を賜りましたことに対し、心から敬意を表し深く感謝申し上げます。

歴史を顧みますと、本校は大正8年12月27日、東京府立第五高等女学校として、修業年限5年、生徒定員500名で、東京府豊多摩郡淀橋町字角筈(現在の歌舞伎町：旧コマ劇場界隈)に約3400坪の敷地で認可されました。本校の開設には「日本女性の理想の教育を」という熱い思いで、尾張屋銀行頭取婦人の峯島喜代女史が、多額の私財を東京府に寄付されると共に、各方面の力を得て開設されました。

本校の初代校長白石正邦先生は、井上東京府知事の懇願により、19年間の長きにわたり豊富な学殖・高潔な人格を以って学校経営や生徒の薫陶に当たり、次のような教育目標と具体的な方針を示されました。

教育目標	具体的な方針
1 真の婦道の達成	1 訓育即教授即教育
2 日本婦人固有の静けさの保持	2 躰の指導
3 品位の涵養	3 感謝と誠実の徹底
4 礼儀の確立	4 健康の増進
5 精神生活透徹	5 推譲心の培養
	6 理智の啓発

先生は、家庭教育・学校教育・社会教育の研究がご専門で、本校の教育の根本をなす訓育に最も留意されていたのは、「予め一定の型をつくっておいて、生徒を無理にこれにはめようとするのではなく、生徒をして自ら考えしめ、自らなさしめ、自ら働かしめる」という点であるとされていま

す。現在にその精神を置き換えて考えてみると、まさに「自主自律」の精神です。これをまた教える側から見ると、「考える授業の工夫・自学自習を授業に取り入れる・探究的体験的授業の実施やキャリア教育の実践」となるのではないのでしょうか。古い講義型の授業は、「予め一定の型をつくっておいて、生徒を無理にこれにはめようとする」に当たるように思えます。また、大正9年には、調息という毎朝10分間の無念無想の時間があり、心の健全育成にも取り組んでいました。

さらに、この年より、転地修学として夏休みに、信州小諸(真綿掛実習)、千葉県佐倉(園芸・養鶏実習)千葉県北条、沼津(水泳術習得)、北海道(地理的・歴史的見学)という実習を主とする移動教室が開始され、教職員の付き添いを可能な限りふやして実施し教育したそうです。修学旅行は大正13年から全学年(北海道・東北・関西・箱根・伊豆・日光・伊香保・銚子等)で実施されていました。上記のように、現在盛んに言われている体験学習に当たる行事が多数あり、現在の生徒にも体験させたいような内容であったようです。

上級学校への進学者向け補習授業は昭和3年から国数英で開始したそうで、進学校としての学校のニーズがスタートしたようです。この頃の補習授業については、詳しいことは資料として残っておらず、先輩諸氏からの情報があればと思っています。

都立中高一貫校が今年、さらに四校(富士・大泉・南多摩・三鷹)開校いたしました。応募倍率は平均8倍以上あり、小学生の保護者の関心の高さに驚かされました。公立中学校のもう一つの選択肢として、本校への希望者もこれからさらに年々増加すると思われ。歴史的には本校は、1年から5年までありその上に専攻科を置いておりましたから、6年間の一貫教育の学校であったようで、今年度より中高一貫校になるというのは間違いで、中高一貫6年制に戻ったというのが正しい解釈になるのかもしれませんが。新しい「富士」の学校教育の創造に向けて、「不易流行」の志で、これからの日本のリーダーの育成のために、先進的な教育プログラムをどしどし取り入れていきたいと思っております。

結びに、このたび創立90周年記念式典を行うにあたって、附属中学校の開校式典も併せてとり行うことにいたしました。東京都立富士高等学校創立90周年と東京都立富士高等学校附属中学校の開校式典を機に、教職員一同草創期の開校精神を大切に、普遍的な人間愛に基づく人格形成と、その時代の社会で役に立つ人材の育成を目指して、決意を新たに踏み出したいと存じます。



創立90周年記念・ 附属中学校開校記念によせて

若竹会会長 谷畑 充



附属中学校の開校おめでとうございます。

創立35周年記念式典挙行は私の在学中のことでした。これは現在の都立富士高等学校と校名改称(1950.1.)してから5年を経て、男女共学、校舎も講堂もある、プールも持っている新制高校の姿が、そのスタートだったのです。

創立40周年記念式典(1961.5.)は旧鉄筋校舎の落成記念でもあり、それまでの各学年6学級(男子100名、女子200名)から各学年8学級(男子150名、女子250名)の始まりでした。24学級規模が完成した翌年には各学年9学級(男子175名、女子275名)の27学級に向かいます。1967年には学校群制度が実施され、住居表示変更で富士見町から弥生町に変わりました。

創立50周年記念(1970.6.)は使用禁止の危険建物の旧体育館(講堂)に代わる体育館の落成でもありました。またこれを前後して都立高校の1学級定員を50名から5名ずつ減じて45名に、富士高校は念願の男女同数を達成(男子203名、女子203名)しました。

創立60周年記念(1980.9.)は再度のベビーブームを受け1学級は47名に戻り、10学級470名の1年生が入学してきました。全体が28学級になり、この学年が卒業するとまた10学級の1年生と、繰り返しました。一方、1982年度から学校群からグループ選抜制に移行されました。

校舎改築が決定し、埋蔵文化財の調査を含め新校舎が完成し、さらにグラウンドやテニスコートなどに1年を要し長期の工事を終えました。

創立70周年記念式典(1991.11.)はすべての施設の完成の後、久々に工事現場のない環境で行われました。

1995～1997年度で、40人学級、全校24学級

が完成しました。敗戦後の廃墟の中から出来た新制高校の富士高校の基本の形、40名×8学級×3学年がようやく確立したように私は感じていました。しかし、70周年を祝った体育館でしたが地盤に問題が見つかり、現在の位置に、地域の災害緊急時の備蓄庫の機能も備えた体育館に建て替えられました。

創立80周年記念はこの新体育館落成とともに祝いました。

この頃、「学校の生き残り」という耳慣れない言葉が卒業生にも伝わってきました。3学区の中でも統廃合、校名改称、定時制課程だけの高校が現れました。「都立高校改革推進計画・新たな実施計画」の中で、富士高校は附属中学を併設する中高一貫校に指定され、今日を迎えました。新しい学校は、中学(40名×3学級×3学年)+高校(40名×5学級×3学年)=24学級。混乱とも言えそうな変化の中を、およそ3万名の卒業生の一人ひとりが確実に存在しました。その一つ一つの変化にはそれぞれの背景があり、卒業生が自己の来し方と重ね合わせて見るとき、それは在学期間のみではなくなります。過日、50代の卒業生らと富士高校を話題にしている中で、「今度は、何が変わるのだろうか」という呟きが私の耳から消えません。たまたま富士校内で「……5時下校です。……」という校内放送が耳に入り、一瞬、思考が停止しました。

富士高校だけを狭義に解すれば8から5の学級減にとれますが、在校生の多くは3年から6年の長期滞在になります。中学1回生は、卒業まで6年を要します。この形が永く続くことを切望します。少なくとも30年は。卒業生は来年、再来年ではなく、永い先まで、この続きを自分の事として楽しみにしたいと思っています。

「父母と先生の会」・「おやじの会」 そして「富士高」

「父母と先生の会」H22年度会長 齋藤 昌夫

まさに崩壊寸前、行き詰った時の発想の転換の大切さ、技術的には多少劣っていても個々の選手が精一杯力を出し切った時のチーム力…ワールドカップ南アフリカ大会が終った。ベスト16ではあったが、わが「日本代表」チームの予想外の健闘はいろいろなことを示唆してくれた。壮行試合に負け続け、選手たちは自ら考え結束し事態打開を試みる…。

「応援してくれた人とともに批判してくれた人にも感謝したい。その声がなければここまでこれなかった。」この本田選手の言葉もあっばれだった。

「(切羽詰まった状況の)こういう時こそ頑張りましょう！」これは本田選手の言葉ではない…。

「父母と先生の会」と聞いて、皆さんは何を思うのだろう。

第二次世界大戦後、当時の文部省(現在の文部科学省)がアメリカ合州国から入ってきた「PTA」を「父母と先生の会」と訳したのが始まりだそうだが、この日本語の響きを引き継いできたところが如何にも「富士高」らしいと思うのは私だけだろうか。

ここで少し時を遡り「父母と先生の会」を振り返ってみたい。

7年前の2003年、武田洋司さんの娘さんが富士高入学試験に合格。そしてまだ入学前の3月のこと、武田さんに当時の副校長からPTAへ係わるようお願いの電話があった。1年次は幹事、その後2年間会長を務められたのだが、これが現在まで踏襲される「全員参加型」チーム体制のプロトタイプ「武田組」の誕生だったのである。

次代会長であり「武田組」時代に幹事を務められた山口明さんが当時を振り返る。「武田さんの持ち前の明るさ、フットワークの軽さで、毎回積極的に活動に係わってくれたので、雰囲気が変わりました。また役員全員が積極的に動いたので、活発な会となりました。」やはりチーム力である。

「武田組」では普通教室への空調設置が、また、「山口組」では携帯メール配信が実現した。

空調設置については、都高P連と連携し、都議会に働きかけることで実現。それ以前から当時の佐治校長が都庁に交渉していたものの叶わず、都高P連でも数年かけて全党派都議に働きかけを行った結果、議会での採択に結びついた。そしてこの結果は、都高P連加盟・未加盟に係わらず、全ての都立高校に適用されたとのことだ。

そして携帯メール配信については、子ども経由で、時にお便りが届かないとの課題があり、これを導入。現在まで活用されることになる「うさぎメール」である。

再び山口さんにご自身の「きっかけ」から振り返っていただく。「1年次に総会に夫婦で出て、家内の発言をフォローして(武田会長に)捕まり、2年生から参加しました。私の娘の入学式翌日の朝のことですが、体育館でオリエンテーションを受けていたその時に、新宿歌舞伎町から逃げてきた暴力団組員が警察に追い詰められて、体育館下で短銃自殺しました。私は、そのニュースをネットで見て驚きましたが、子ども達はその事実を知らずに過ごしていました。その影響で、校内への不審者の出入りが嚴重になりました。…いろいろありましたが、楽しい富士高でしたね。」

「会長就任時に特に気負ったものはなく、これまでの路線を継承して、和気あいあい、仲良くやっていければいいと思いました。」とは「山口組」時代に幹事を、その後「鈴木組」として会長を2年間務められた鈴木政俊さんの言葉である。

鈴木さんは、ふたりの息子さんたちの小学校・中学校で「おやじの会」を作り、その間、「おやじ東京・おやじ日本・杉並おやじネットワーク」を立ち上げたという、言わば「おやじの会」立ち上げのエキスパートだ。

長男が通う豊多摩高校でおやじの会を作ったことを武田会長が聞きつけ、次男がまだ入学していない3月に、当時の小林副校長から電話があり、「鈴木さん、豊多摩でおやじの会を作ったそうですね。うちでも作ってください。ついては新年度PTAの役員になってください。役は、幹事です。」と、逃げられない仕組みを作られてしまったとのこと。

そしてその年の7月、山口会長と共に富士高に「おやじの会」を立ち上げる。(言うまでもなく入会は男女問わずであり、「世話人」という名の代表を置く。)

「鈴木組」となり、早速新しい試みとして、おやじの会有志で編成された撮影隊が「富士高祭の全プログラム(!)」をビデオに収めDVDを作成、「父母と先生の会」の名において生徒全員配布に至る。この現在まで引き継がれることになる「父母と先生の会」と「おやじの会」の協同企画は、後藤雅毅さんの「編集技術」及び以降毎年開かれることになる「撮影のための勉強会」があっちはじめて実現したものだ。(同時期にこういう方が現れるとは…OBとなってからのご協力にも感謝!である。)

そしてこれらを通して、父親の行事・保護者会への参加も多くなったということだ。

「鈴木組」で幹事を務め、昨年度「洪組」会長となった洪斉明さんは、会則整備等の、附属中学を迎え入れるための準備に尽力した。そして他校ではもはや稀少となっている「会員名簿」を、富士高生とその保護者たち相互の信頼の証として存続を強調する。「子どもが本校に進学を強く希望したのも、私が会長就任を受けたのも、共通しているのは『校風』を気に入ったことでした。そこで、本校が長年の歴史で築き上げた『校風』を継続させることが私の仕事と考えていました。」

洪さんは会長として他校のPTAと交流する中で、「富士高歴代の役員はPTA初心者の割合が多く、それはPTAとしての組織の在り方や運営に疎い面もあった反面、既存概念にとらわれないことが新鮮であり独自性を感じた」ということだ。それを育んだのは富士高の「校風」であると…。

ついでに言えばPTA初心者とはいえ「富士高経験者」は多い。現「齋藤組」にも、自身が卒業生である幹事、夫君が卒業生という書記、ふたりの娘さんが共に富士高生という幹事…。それほどまでに惹きつけてやまない「校風」とは何だろう。

富士高は生徒・保護者・教職員が、総じて穏やかで懐が深く、お互いを尊重し、自然に「自主自律」の精神に則った対応が為されていく。サッカー選手型対応とでもいおうか。監督(保護者・教職員)

は簡単な指示を与えて送り出せばよい。いざ試合が始まれば自分たちで考え、打開していくのが富士高生である…。この「インタラクティブな信頼関係」こそが、富士高の「校風」の真骨頂といえるだろう。

さて冒頭の「(切羽詰まった状況の)こういう時こそ…」はわが「齋藤組」の副会長の言葉である。今年も無事配布できた「会員名簿」に、(訂正シール作成で対応した)原稿の不備に続いて一部に製本の不具合が見つかり、限られた日数での対応を迫られた時のことだ。互いに仕事の合間を縫っての携帯でのやり取りの後、最善の対策を取るべく動き出した。そして次々に届く役員からの応援メール。チーム力に手応えを得た。

ここまで「××組」と書いてきたのは言うまでもなく、「父母と先生の会」とは、平日の資料室で開催通知・議事録を作成印刷の労を担ってくれている書記・幹事・会計の方々はじめ、一声掛ければ協力の手を挙げてくれる学年委員の方々、そして教職員の方々含めて全員の力無くしては成り立たない「組=チーム」だからである。歴代のどの「組」も、そしてこれからもそのことは変わらない。

2010年は例年以上に忙しい。記念誌の配布とともに開催されるであろう祝賀会は、もう一人の副会長が実行委員長となって着々と準備中だ。役員全員でいい準備をしたい。

そして附属中学開校に伴い、これからは今まで以上に「富士の校風」を発信すべく、会報「ふじ」を広報「富士」として新たにスタートさせたい。まずは広報準備委員会の発足である。これまで個人に頼り過ぎていた部分は、継承を考えるとより多くの方の参加が望ましい。単年度で取組めることはたかが知れている。ゆっくりと精一杯に「富士高デモクラシー」(今年の体育祭スローガンより)を次世代に継承していこうではないか。

今回この稿を書くにあたり歴代の会長とのやり取りで私自身が感じた共通する意識は、それぞれが社会的地位に関係なく、富士高へのひたむきな情熱を持って取り組んでいることだ。ご協力頂いた方々にあらためて感謝したい。

これからいよいよ勝負どころ、後半の45分が始まる。叱咤激励とともに一層のご協力を!

創立90周年によせて

平成 21 年度生徒会長 福嶋 雅和

都立富士高校全日制創立90周年、及び附属中学校の開校にあたり、心からお祝いを申し上げます。

90周年云々と言っても、卒業生を含む一般の生徒にとって関わりがあるのは、自分の青春の一コマと重なり合う3年間のことにすぎません。しかし、何万人もの卒業生の一人一人の三年間が、富士高の90周年を90周年たらしめているのだと思うと、なんだか富士高というものが、とても大きな存在に感じられ、ますます90周年の重みを実感することができます。

さて、記念すべき90周年に在学している私たちは、自分自身の未来をしっかりと見据えるとともに、富士高での学校生活を余すところなく謳歌しようと、必死にもがいているところです。その中でも、生徒の自主的な活動は、ここ数年でとても盛んになってきているように思います。

特に部活動は、今年度の加入率が百パーセントを超え、また多くの大会への出場を果たすなど、めざましい活躍を見せています。

生徒会執行部も、中野特別支援学校や学生情報誌『エスィーズ』などと連携して、ボランティアをはじめとする対外的な活動に積極的に取り組んでいます。また数年前から行ってきた生徒会主催の学校説明会は、先生方や入学希望者に好評を博し、現在でも続けられています。それに加え90周年式典の第二部の主催も、生徒会が担当させていただいており、とても光栄に思っています。

こうした「自主自律」の精神は、創立当初から連綿と受け継がれ、現代の富士高生にも正しく引き継がれてきているものであると、いま心から感じています。90周年という節目を迎えたい

ま、改めて、富士高の伝統を創り上げてこられた諸先輩方、教職員の皆さん、その他大勢の富士高の歴史に携わった皆さんがいなかったならば、いまの富士高はなかったのだと、そう思っています。本当にありがとうございました。

最後に、附属中学校が新設され、生まれ変わった富士高が、今後とも発展を続け、「新たなる世界の起点」であり続けることを祈念して、お祝いのことばといたします。



創立90周年を祝して

第16代校長 氏家 武彦



富士高等学校創立90周年、誠におめでとうございます。合わせて、中高一貫教育校として新たにスタートされたことを祝福いたします。

私がお世話になったのは平成9年から12年までの3年間でした。現在も進行中ですが、一連の教育改革が始まり、いろいろな問題が生じ、対応を求められていました。講師時数の不正問題、学校管理運営規則の制定、人事考課制度、学校行事における国旗掲揚と国歌斉唱の問題など、どれ一つ取りあげても簡単には解決できず、多くの校長仲間が苦悩していました。勿論本校でも教職員の抵抗もありましたが、東教頭、その後任の星野教頭の尽力で校内もまとまり、大きな混乱もなくなんとか乗り切ることができました。両教頭を始め全教職員に心から感謝しております。

もう一つ心に残っているのは、体育館の新築の件についてです。耐震性に問題があると指摘されてはいましたが、補強か新築かで意見が分かれています。私は教育委員会と折衝する中で新築を考えるようになりました。地域の震災の時の物資の集約拠点となるなどの条件を考え場所を決めました。その際に当時の教育次長や都の技監に直接視察・ご指導を頂き最終決定となりました。近隣住民への工事説明会では数件の要望は出されましたが反対意見はありませんでした。これも教頭や教職員の日常の努力のおかげでした。私の富士高での三年間は良い教職員・生徒にも恵まれた幸せな三年間でした。

本年3月末で閉じた定時制課程については、勤労青少年のための教育機関としての役割は終えたと言われていたので当然だと考えています。定時制教育は必要ですが夜間のみという必要はないと思います。その意味から都の方針は支持したいと思います。定時制の先生達は教育の原点はここに有るという思いで必死に努力をされていたのを思い出しますが……。

おわりに、本校のますますの発展を祈念して創立90周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

新たな門出、さらなる発展を

第17代校長 高井 宣昭



創立90周年、誠におめでとうございます。輝かしい伝統を生かしながら、時代の要請に応える学校として、ますます発展されることを祈念いたします。

私が富士高校に着任したのは平成12年4月でした。それからの在籍3年間は、はなはだ慌ただしい日々でした。

着任した年は創立80周年にあたる年でした。しかし、体育館の建て直しや、その跡地の多目的コート造成工事が進行中で、喧騒の中で授業が進められていました。そのため、創立記念行事については、翌13年9月に体育館落成に合わせて、1年遅れで実施しました。

こうした校内事情に加え、在任した3年間は都立高校教育改革の真ただ中でありました。

平成13年9月には「進学指導重点校」に4校が指定されました。富士高校の名はそこにありませんでした。続いて同年10月、「中高一貫教育校の整備に関する検討委員会」の設置が明らかになったとき、私は重点校が駄目ならば、富士高を中高一貫教育校へという思いがありました。どれほどの効果があるものかは、判断しかねるものでしたが、星野喜代美教頭とともに、都教委や中野区教育委員会、中野富士見中学校長とも連絡を取り合い、打診を重ねました。

平成14年4月、「都立高校改革推進計画・新たな実施計画」が発表され、6月には本校を含む9校の中高一貫校への移行がほぼ決定されました。そこでは「様々な場面・分野でリーダーとなり得る人材を育成するため、トップクラスの学校より選定した。3学区は南北に長いので2校設置することにした。」との説明を受けました。10月24日には正式発表となり、新しい富士高校の方向が決定づけられました。この時点で富士高校定時制課程の閉課程もあわせて示されたのでした。

そのほか、教育施策の改革、教職員の服務についても立て続けに改革の波が押し寄せ、その対応に追われる日が続きました。

人事考課制度の導入(自己申告・業績評価)、授業観察の実施、学校運営連絡協議会の設置、機械警備システムの導入、総合的な学習の時間の設定……等々。平成14年4月からは土曜日が休業日となりました。富士高校では進学指導充実のために、「土曜進学講座」を開講しました。

平成13年9月11日、ニューヨークでの同時多発テロの影響で沖縄修学旅行が10月から2月に延期、ということもありました。

そんな中、平成13年10月には、一人の生徒が屋上の天窓を踏み破って転落、11月に亡くなりました。返す返すも、悲しく、心が痛む思い出となってしまいました。

東京都立富士高等学校 90周年に寄せて

第18代校長 佐治 恒孝



私が、東京都立富士高等学校校長として赴任した期間は平成15年4月から平成17年3月までの2年間でした。都立富士高等学校は、大正8年に設立された東京府立第五高等女学校に起源をもち、昭和25年より東京都立富士高等学校へと改称し現在に至っています。

私が前任の玉川高校(平成19年に砧工業高と発展的統合)から富士高に着任して、まもなく、平成9年度から教育改革の一環としての都立高校改革推進計画が進められ、その最終計画で、平成22年4月から都立富士高等学校は新たに附属中学校を併設することが決まりました。また、富士高校に併設されている定時制課程も、平成22年3月に閉課程となり、杉並地区昼夜間定時制高校へと移行することが決まりました。

私は、校長として着任した時から、「入学して良かった、卒業して良かった学校」という経営方針で取り組みました。生徒、教職員の努力と、地域、保護者の理解と協力により、生徒の可能性を発見し伸ばす学校に、また、中高一貫校が完成するまでの間、教育の質を落とさず、進学校としての富士高校の存在を示すことが大切だと考えました。そして、都民・生徒・保護者から信頼され、富士高は日本一の学校だと思われる学校にするという目標を掲げて、生徒に接してきました。

改革推進計画の実施に加え、管理運営規則が改定され、校長の権限や責任が強化され、法令遵守・説明責任が求められ、従来からの慣例どおりにはいかない事態があり、その是正に苦慮したことが思い出されます。

特に、入学式や卒業式等については、生徒を思う心からの求めるものは同じであるはずが、対立的な意見があり、学校運営に苦慮したことは感慨深い思い出であります。

また、入学後のオリエンテーション開催中では、不審者が警察に追われて自転車門から入り込み、拳銃自殺した事件に遭遇しました。その後の警察、

報道機関等を含めての対応で、責任者としての重責と生徒を守る危機管理の大事さを痛切に感じたときもありました。

ネガティブなことばかりではありません。富士高生徒は明るく、目標を持ち、学生生活をおくり、部活動や体育祭・文化祭等の学校行事は心と体、集団と個が一致した活動、活躍は生き生きとした青春の場として、どれも見るものに感動を与えてくれました。また、PTA、同窓会の学校とともに歩む姿勢は、さすが富士高と何度も敬服した覚えがありました。これが伝統の力と誇らしげに思い、未来永劫に継承されると確信してきました。

このたび、創立90周年を迎えるにあたり、これまでの長きに渡り富士高校を支えてきた、歴代の校長先生、そして、周年行事を企画・運営した藤井正俊前校長、久永哲雄校長をはじめ関係者の教職員等の皆様のご労苦やご活躍に対し心から謝意と敬意を表し、この周年をひとつの節目として、富士高の中高一貫校としての更なる飛躍を期待しております。



感謝と矜持

第19代校長 藤井 正俊



平成17年度から21年度までの5年間在職し、一言で言えば感謝である。生徒に、教職員に、そして保護者、同窓会、地域に。学校は活気に溢れていることがまず大切である。生徒は、勉強はもちろんのこと、学校行事や部活動等にも頑張り、その姿を見ているだけで元気をもらえた。さらに、気持ちのよい挨拶は一層であった。体育祭をはじめとする行事前の、早朝、昼休み、放課後のクラス一丸となった練習風景は、風物詩となった。本番に期待を持たせてくれ、本番もその期待にたがわなかった。全国大会、関東大会出場という都立高では珍しい部活動の高い実績とそれに伴うちょっと誇らしげに感じながらの応援、そして、それぞれの場面での交わす挨拶。まさに、元気の源であった。

明確な学校の目標とした、校是とも言うべき自主自律、文武両道の精神の基、名だたる進学校としての地位の堅持。これらを継承しつつ、新たな文化を芽生えさせるべき中高一貫校に向けての準備、教職員にはただならぬ負担をかけた。しかし、不平不満を口に出すでもなく献身的に取り組んでくれた。チャイム即授業を定着させ授業で勝負をモットーとする学習指導、3年間の計画的継続的な進路指導など。加えて、よき伝統と歴史を継承しつつ、6年間教育のメリットを生かした基本構想の策定。夜遅くまで、都庁に出向き、教育委員会や同窓会の関係者と一緒に基本構想を練ったことは、ご苦労をかけたが、懐かしくよき思い出となっている。

その後、2年間の開設準備室が設けられ、開校に向けての具体的準備。中学と高校の文化の相違は多々あり苦労するとのことは聞いていたが、杞憂といってもよかった。準備室と高校がうまく融合し、一貫校に向けて力を尽くしてくれた。生徒と富士の名をより良くするために。もっとも、そこには保護者、同窓会、地域の協力と期待があったことはいまでもない。なお、この一貫校の教育目標の一つに「瑞々しい感性を磨き、品性を養う」を掲げた。そこには、短絡的かもしれないが、同窓生や在校生の、さらには保護者や教職員の穏やかで気品ある様子から、どうしても取り上げたかった。今、それが看板となることを期待するとともに、次の100周年に向けてますます富士が飛躍すると確信している。この5年間、富士に在職したことは矜持であった。

新米教頭奮戦記

東京都立白鷗高等学校長
東京都立白鷗高等学校附属中学校長
(元教頭) 星野 喜代美



創立90周年おめでとうございます。

私が新米教頭として富士高校に着任したのは、平成11年の4月、45才のときです。当時の氏家校長先生をはじめ、私よりも教職経験の長いベテラン揃いの先生方が大変温かく迎え入れてくれたことを今でも思い出します。そんな私の富士高校での思い出は数限りなくあるのですが、二つにしばり紹介させていただきます。

一つ目は、当時富士高校は隔年現象で二次募集になっていたことです。私の着任翌年は順番で行くと二次募集と言われていた年でした。こんな良い学校がどうしてだろうと思い、単純な私は、それならピーアールするしかないと考え、当時学区域であった、新宿・中野・練馬の全ての中学校を回ることを決意し動き出しました。始めた当初は中学校の先生方から天下の富士の教頭が来てくれたと珍しがられましたが、それでも大歓迎でした。また、暑い中自転車で回っていたためか、最後には当時でたばかりの電動自転車を買ってもらったことが誇りでした。さて、一度言ったことは最後までやりとげるのが女の意地であり、全校回り終えました。結果は無事、二次募集は回避されました。その後は生徒会による夏休み中の学校説明会などを新たに実施し、二次募集の心配はなくなりました。

二つ目は、80周年記念です。体育館の大規模工事を終え、落成記念と合わせて実施したのが着任4年目の時です。同窓会の方々からも富士に相應しいお客様をと切望され、その時教育庁次長であった押切先生が富士高校の裏に住まわれていたことを知り、直接お訪ねし出席を依頼しました。怖れを知らないとはこのことです。無謀な挑戦でしたが、さすがに人間の大きかった押切次長は快く了解してくれました。この時のことを思うと、今でも冷や汗がでます。押切次長にはこれがご縁で、面白い人間として今でも可愛がってもらっています。

この様な毎日でしたが、生徒と先生方、特に校長先生に恵まれ、教頭は大変ということは全く思わず、楽しい5年間を過ごさせていただきました。

90周年、 新たな出発に寄せて

東京都立大崎高等学校副校長

(前副校長) 小林 淑訓



都立富士高等学校創立90周年、本当におめでとうございます。

私は副校長として、平成16年4月から平成19年3月までの3年間お世話になりました。富士高校は中野区の南側の高台にあって、空気の澄んだ日には4階の西の窓から夕焼けをバックに富士山のシルエットが見えたものです。中野富士見町の駅から、北門をくぐり階段を上がっていくと主事さんが植えたコスモスやスイートピーなど季節の花々が心を和ませてくれました。

部活動では、剣道部が関東大会の常連校で体育館の壁に大きな垂れ幕を毎年かけていました。なぎなた部が全国大会に出場したときには、藤井正俊校長と大阪に応援に行ったこともありました。体育祭や文化祭では、生徒の保護者ばかりでなくお爺さんお婆さんまで家族で来られている生徒も多かったと思います。それだけ生徒が家族に暖かく見守られているのだなと思いました。

当時エアコンがある部屋は限られており、夏は30度を超える暑さでPTAの方々に家庭用扇風機を寄付していただき生徒は猛暑を凌いで勉強していたことを思い出します。

22年度からは併設型中高一貫校になり中学1年生が入学しました。構想が始まった頃は、主幹の江藤先生を中心とした構想委員会の先生方と明日の富士高の夢を描きながら話し合ったことを思い出します。概念図で富士山の頂上を教育の目標にたとえ、頂上にたどり着く道をあえて途中までで描きました。教育庁の部長からは、頂上に至る道がなぜ途中で切れているのかと質問を受けたことがあります。当時の進路指導主任が、限りなく近づくけれどもなかなか達成できない永遠の目標をめざして、たゆまなく努力する富士高の姿をイメージしていると答えていたことを思い出します。

PTA、同窓会には、部活動の支援やHPの改編などで大変お世話になりました。古き良き学校の姿を残した富士高で勤務できたことは貴重な経験となりました。世界の出来事がオンタイムで見られるこの社会にあって、互いに信じあい力を併せて生きていくことがますます求められています。富士高がこれまでに伝統を礎に社会に貢献する人材を輩出する学校として益々発展されることを心より祈念いたします。

定時制閉課程を迎えて

東京都立南平高等学校副校長

(前定時制副校長) 宮澤 良美

東京都立富士高等学校定時制課程は、平成21年度をもって幕をおろした。

昭和15年に東京府立第五高等女学校夜学校として発足し、69年の輝かしい歴史をもち、約3000名の卒業生を輩出した。多い時には2クラス80名以上が在学し、大学へ進学した生徒も多かった。時代の流れとともに生徒は減少し、ここ10年は1クラスとなり生徒数も卒業時には20名以下となった。

勤労青少年が働きながら学んだ頃とは違い、最近では全日制には入れなかったのが定時制に入学する生徒が多くなった。このため、高年齢の勉強をやり直したいという生徒は非常に少なくなった。

そのような生徒が集まる中、同じような傷ついた経験を持っているため、生徒はとても仲が良かった。昔から変わらない一緒に食べる給食もつながりを強めているのだろう。中学校の時に不登校であった生徒も、入学してからは学校に通うことができ無事卒業していく。定時制は少人数であるため、教員が生徒一人ひとりに目が届きやすいこともあるが、夜ならではの優しい不思議な雰囲気がある。

定時制は生活指導面が大変な生徒が多いと云われる中、本校の定時制の生徒は礼儀正しく地域からも苦情も少なかった。全定の教員が疎遠な学校もあると聞くが、全日制の先生方も定時制の立場を理解し協力的であり気持ちよく仕事できた。時代は変わっても伝統ある富士高等学校定時制の気風は変わらなかった。

玄関を入った傘立ての上に、歴史を刻んだ閉課程記念プレートがある。また、若竹会の部屋をお借りして閉課程記念誌と記念品が置いてある。学校を訪れた際、是非立ち寄って欲しい。

16年間

東京都立国立高校非常勤教員
江藤 豊



平成22年度の入学式で久方ぶりに富士高を訪れる機会を得た。在校生の伸びやかで明るい様子や校舎内の穏やかな佇まいの中に「ああ富士高だ」という雰囲気漂い、懐かしい感慨に浸った。富士高に16年間も在職したので沢山の思い出があり、少しずつ変化する流れの中で様々な楽しい体験が多く持っていて感謝している。何よりも学年を4回担当したことは幸運だった。3年間で日増しに成長し、著しく逞しく変容する心優しい生徒達と触れ合うことは楽しいものであった。修学旅行は、以前は京都・奈良が定番であったが沖縄に行くようになり、時期も費用の都合で秋から年明けに移動した。私も初めての沖縄引率は飛行機利用ということもあり忘れ難い。宿舎は巨大なリゾートホテルで、正面の砂浜に多数の生徒が繰り出し潮風を浴びている情景や、首里城や真っ暗な壕の中などが思い浮かぶ。合唱祭は当初は入選業務期間中に旧体育館で行っていたが、中野ゼロホールで盛大に開催されるように推移した。直前の教室でのクラス練習場面は、歌声が会場より身近なので迫力があり若さの横溢に大変感動した。文化祭と体育祭は大きな変化は見られないが文化祭の入場者は増加してきた。中高一貫のスタートで学校行事に新しい試みと展開があるので期待している。最後の数年間の思い出は、やはり一委員として継続し携わった中高一貫校開設への移行作業である。平成15年度から基本構想委員会が発足し徐々に準備を始め、都立や他県の先行校や私立高校を見学し情報及び資料収集を開始した。また、富士高の現状分析や教育課程等の見直しなどの関連整備の検討実施を行った。18年度に正式に中野地区中等学校基本検討委員会が立ち上がり、都庁関係者や外部委員と共同で骨子と全体像を立案し中高一貫の要綱が完成した。最終案の内容に至るまでは多面的な検討と頻繁な審議調整を要した。新設校の理念と方針となる教育目標と生徒像については校内で時間をかけ毎週丁寧に協議した。各委員の方々が大変熱心に議論される様子が印象に残っている。施設と設備の件では校舎内を何度も見て回った。中学に必須の施設や特別教室の新設・配置には試行錯誤を重ね原案に落ち着いた。入学式の当日各施設や特別教室等を案内して頂いたが、予想以上に立派に改築しているのを見て驚き嬉しく思った。

新しい体制となった富士中学・高校が今後一層飛躍し発展することを心より願っています。

富士高校での 学校家庭クラブ活動

東京都立忍岡高等学校 主幹教諭
高橋 靖子



90周年おめでとうございます。伝統ある富士高校に家庭科教諭として平成12年から5年間在職しました。赴任当時、はじめて家庭科の授業を行った時、真剣に授業に取り組んでくれた富士高生に感心したことを思い出します。自主・自律の校風に育まれた学校で自らの進路を真剣に考え、何事にも精一杯取り組む富士高生に囲まれ、充実した5年間を過ごすことができたことに感謝しています。

在職中特に、印象に残った思い出は、平成14年に富士高校が、全国高等学校家庭クラブ連盟全国会長校として家庭クラブ50周年記念式典を行ったことです。当時全国家庭クラブ生徒会長を務めてくれた胡駿太郎さんには、家庭クラブ及び家庭科教育発展のためにいろいろな場で活躍してもらい、改めて感謝申し上げます。

もう一つ強く印象に残っている思い出は、平成15年に、全国高等学校家庭クラブ研究発表大会において、当時2年生だった長尾章弘さんが家庭生活を豊かにする研究実践活動であるホームプロジェクト部門で「もっとおいしく食べよう納豆」という題目で、東京都を代表して発表を行い、産業教育振興中央会賞を受賞したことです。家庭科の授業の夏休みの宿題で取り組んだ実践活動を発展させたものでした。この発表にあたり、一緒にプレゼンを作ったり、発表準備の協力をしたりしてくれた矢野弘子さんや古川淳悦さんをはじめ、当時の富士高校の生徒の皆さんには、本当に感謝しています。頑張って取り組んだ活動に対して皆で受賞の喜びを味わうことができたことは、本当に教師冥利に尽きます。すばらしい感動を与えていただいた富士高生に、改めてお礼申し上げます。

これからも富士高校のすばらしい校風の中、一人一人が自己の可能性に挑戦し、活躍され、富士高校がさらに発展されることを陰ながら応援しています。

富士高校の思い出

上越市立保倉小学校理科支援員
金井 克明



富士高校には、1994年4月から2007年3月までお世話になりました。

私の地学の授業を受けはじめた生徒から、「先生、地学って授業はないのですか」という質問をよく受けました。私の授業は、本校周辺の地形と地下のつくりからはいります。また、授業の内容は、地形図の読み方、地形断面図の作成と色鉛筆を使っての地形区分図の作成、地下ボーリング資料を利用しての地下の地質の推定、関東ローム層の顕微鏡観察など、5月末までは、実習が中心でした。生徒たちはこの授業をまわりの生徒と相談をしながら進めました。普通、授業といえば、教師の講義が中心ですから、変わった授業だと思ったのでしょうか。さまざまな資料から事実を集め、それを整理していくとその土地の生い立ちを組み立てることができるという科学の方法を学んでほしいという願いを基にした授業でした。1年間で、生徒たちの身近な学校周辺の地形地質からはじめて、次第に視野を広げ最後は宇宙の生い立ちまで進める方法でした。

この最初の授業を進めるために、1人1台はどうしてもほしい双眼実体顕微鏡は、赴任当初は地学科には1台もありませんでしたが、諸先生方のご協力で数年で揃えることができました。お互いに協力して学校をつくっていくという富士高校のすばらしさを感じた最初のできごとでした。

こうした自分たちの生活している場をとりあげた授業や年に3回ほど行っていた地層観察・化石採集などの野外実習の経験は、卒業生とあっても、よい思い出話になります。

天文部では、学校の屋上を利用しての月1回の徹夜観測、夏の合宿、文化祭の展示が定番行事でした。こうした行事には、たくさんのOBが援助してくれました。私が赴任する前からのOBも参加してくれました。

分掌では、担任を8年、教務部を5年やらせていただきました。侃々諤々の議論を行いながらも、

富士高校の1年1年を過ごしていったことをなつかしく思います。しかし、私が勤務した後半は、次第にこうした議論が少なくなっていったのは残念なことでした。

新しく生まれ変わる富士高校の一層の発展に期待します。



峯島喜代について

峯島 茂兵衛

峯島家歴代の当主は18世紀半ばより、江戸に住み茂兵衛を襲名し、私は8代目になります。唯5代目当主峯島喜代のみ女性です。代々の家業は質屋でした。幕末より明治維新にかけて親質と云われて、下質と云う多くの質屋を傘下にその品物を預かり、これを担保に金融をする大店になった。

峯島喜代は天保4年3月15日に江戸日本橋元浜町(現在の大伝馬町)3代目峯島茂兵衛の3女として出生した。養子に入った4代目茂兵衛と嘉永2年に結婚、実子が亡くなったこともあり、明治9年4代目の死後は自ら5代目として家業を継いだ。

明治19年より不動産への投資に傾注した。さらに明治33年に尾張屋銀行、明治44年に尾張屋信託株式会社(現在の尾張屋土地株式会社)を設立した。

晩年に至って病床に臥し、死期の近いことを自覚した喜代は、大正7年11月初めの或る日、7代目茂兵衛と近親を枕辺に呼んで、「今の女子教育は余りにも、理詰めに教えられている。私はそれが嫌でたまらぬ。私は最後のご奉公に50万円を寄附するから、これで家政を主とし、実際に役立つ教育をする学校を拵えて貰いたい。」とかねて抱いていた考えを告げた。同席の一同は喜代の言葉に感激し、直ちに相談の上、11月18日東京府庁に喜代の意向を具申した。井上府知事は喜んですぐさま臨時議会に付し、全員一致で寄附金受理を決した。

翌12月14日峯島喜代は86歳の生涯を閉じた。

喜代の寄附金により、質実な良妻賢母を目指す女子教育を実施の為の「東京府立第五高等女学校」の新設が決定し、大正9年同校は新宿淀橋町879番地(現在の歌舞伎町)に開校することとなった。

その敷地は明治44年に取得し、明治の初めは旧肥前大村藩主大村子爵の別邸であった。尚この敷地約3400坪は無償で東京都に貸与したものであった。

生前喜代は質素儉約を守り、平素は贅沢な料理を好むのではなく、立派で上等な着物も着ること

はなかった。

また毎朝早くから市電に乗って傘下の質屋を見廻り、声をかける。このことはお互いの意思疎通、和やかな雰囲気を作ったに違いない。主人自らがこう云う風であったので店内は質素儉約、仕事一筋に励んだ。

喜代は熟慮断行、躬行実践、強固な意志を持ったカリスマ的な指導者であった反面、世話好きで店内の男女に眼をつけ、年令を確と覚えていた。婚期が来れば、彼には彼女がよいと自分の意中通り取り合わせ結婚させる特技があり、自ら月下氷人に任じた。その結果、多くの世話になった夫婦が皆円満に収まったのは、人一倍優れた眼力があったからと思われる。

また商いや生計についての悩みの相談にものり、その人の身になって親身に解決に努めた。

世人喜代を評するに「春風の如く、己を持すること秋風の如し」と。



現在、校長室に飾られている肖像画

現在の富士の取り組み



富士高校のこの10年の教育課程

主幹教諭 松室 重男

1 平成13年度入学生

平成元年に告示され、高等学校では平成6年度の第1学年から学年進行で実施された教育課程である。個性を生かす教育を目指し、前回の教育課程(ゆとりカリキュラム)からさらに教科の学習内容が削減されたものとなっている。また、この教育課程で社会科が地理歴史科と公民科に再編され家庭科が男女必修化となった。

2 平成15年度入学生

平成11年に告示された学習指導要領が平成15年4月から施行された。新たに創設された科目は「総合的な学習の時間」である。これは自ら課題を見付け、自ら学び自ら考え、問題を解決する力などの「生きる力」を育てることや、情報の集め方、報告・発表・討論の仕方を身に付けることなどが目的であり、「情報」も高度情報通信社会の諸課題(現代社会における情報の意義・役割、情報モラルに関する問題)の解決できるよう指導することが目標として新設された。また、「理科総合」は、自然の事物・現象に対し実験などを通して総合的な見方・考え方を養う目的で創設された。「総合的な学習の時間」は各学年1単位、「情報C」は3学年に2単位、「理科総合」は1学年で化学または生物とセットで必修選択としておかれる教育課程が組みなおされた。

3 平成17年度入学生

土曜授業を実施したのが大きな変更である。年間18回土曜授業を実施、それにより各学年2単位科目増となった。1学年で国語総合・英語Ⅱ・世界史を1単位増とし、それに伴い体育の単位数変更・総合的な学習の時間も2学年1単位、3学年2単位などの調整をした。また、週2回7時間目が設置されていたのが水曜の1回と改善された。土曜授業は長期休業日の弾力的運用(長期休業日を増減させる補填を土曜日の授業で補う)の一環で許可されたものであるが、1年次に基礎力充実のため国・英は増加単位と世界史の増加単位により世界史Aから世界史Bへと科目変更したことは大きな改善であり、7時間目の減少は部活動時間の確保にも役立った。

4 平成20年度入学生

平成17年度に変更した「総合的な学習の時間」の履修内容(3学年)について学力重視に傾いているとの指摘があった。本来の履修内容に戻すためには平成15年度入学生教育課程の各学年1単位が望ましいことから、1学年の「理科総合」を2学年に移し、2学年に設置されていた地歴(世界史)・理科・芸術の選択を理科のみにする改善をおこなった。この間、平成19年度から東京都設定教科・科目「奉仕」体験活動が導入された。本校では当初は2学年、現在は1学年で履修しており、体験ボランティア・地域清掃・進路学習などを中心に行っている。

5 平成22年度入学生

平成22年度から富士高校が中高一貫校となるにあたり、中学3クラス、高校5クラス募集となった。この機会に進学校として5教科7科目が学べるカリキュラムに変更した。1学年で設置されている理科の選択を解消し、3学年に設置されている「情報」を入学の早い時期(1学年)に移し、2・3年でその知識・技能を活用させることにした。そして、1学年で生物Ⅰの必修化、情報Cの設置、倫理は2学年へ移動、家庭総合(3単位)から家庭基礎(2単位)への変更。2学年で物理Ⅰ・化学Ⅰの必修化。さらに3学年では必修が(共通+必修選択)が文型17単位・理系20単位から文型・理系ともに22単位へ増やした。この結果24年度から3学年は午前中は全員が必修のために登校し、午後は進路に合わせた選択科目の学習を行うことができるようにした。

6 新教育課程(平成25年度入学生)

平成21年3月に告示された新しい学習指導要領に基づいて、平成25年度からは学年進行で新教育課程が実施される。「生きる力」の育成、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成、豊かな心や健やかな体の育成をめざした指導の充実が求められている。また、東京都では「日本史」が必修化の方向で検討が進められている。本校でも様々な課題を検討し、よりよい教育課程作りを進めているところである。

教育課程

教科	科目	標準 単位数	平成13年度入学生						平成22年度入学生													
			1年		2年		3年		科目	標準 単位数	1年		2年		3年							
			共通	選択	共通	選択	共通	必修 選択			自由 選択	共通	選択	共通	選択	共通	必修選択		自由選択			
																理型	文型	理型	文型	共通		
国語	国語 I	4	5						国語表現 I	2												
	国語表現	2						2	国語表現 II	2											2	
	現代文	4			2		2		国語総合	4	5											
	古典 I	3			3				現代文	4			2		2							
	古典 II	3						3▲	2	古典	4			3						2	2	
	古典講読	2							2	2	古典講読	2							3			
地歴	世界史 B・A	4			2			2▲	2	世界史 A	2											
		2								世界史 B	4	3						4△	2	2		
	日本史 A	2							2	日本史 A	2											
	日本史 B	4			2◆		2●		4	2	日本史 B	4			3○				4△	2	2	
公民	地理 B	4			2◆		2●		4	2	地理 A	2										
										地理 B	4			3○					4△		2	
数学	倫理	2	2					2	現代社会	2												
	政治・経済	2					2	2	倫理	2			2								2	
									政治・経済	2				2							2	
	数学 I	4	3				2△	2	数学基礎	2												
	数学 II	3			3			2	数学 I	3	3										4	
	数学 III	3					3△		数学 II	4			4								4	
理科	数学 A	2	2					2	数学 III	3											4	
	数学 B	2			2				数学 A	2	2											
	数学 C	2					2△		数学 B	2			2									
									数学 C	2											2	
	物理 I B	4						2	4	理科基礎	2											
	化学 I B	4			4□		4○		2	4	理科総合 A	2			2							
保健	生物 I B	4			4□		4○		2	4	理科総合 B	2										
	地学 I B	4					4○		2	4	物理 I	3			2						2	
	物理 II	2							4	物理 II	3								4▲		4	
	化学 II	2							4	化学 I	3			2							2	
	生物 II	2							4	化学 II	3								4▲		4	
	地学 II	2							4	生物 I	3	3									2	
										生物 II	3									4▲		4
										地学 I	3											2
芸術	体育	9	3		3		3		2	体育	7~8	2		3		3						2
	保健	2	1		1					保健	2	1		1								
	音楽 I	2			2◇				2	音楽 I	2			2◇								
	美術 I	2			2◇				2	美術 I	2			2◇								
	書道 I	2			2◇				2	書道 I	2			2◇								
	音・美・書 II	2					2			音・美・書 II	2											2
英語	音・美・書 III	2							2													
	英語 I	4	4							OC I	2	2									2	
	英語 II	4			3				2	OC II	4											
	オーラルコミュニケーション B	2	2							英語 I	3	4										
	オーラルコミュニケーション C	2							2	英語 II	4			3					3	2		
	リーディング	4					3			リーディング	4										3	
ライティング	4			2		2			ライティング	4			2		2							
家庭	家庭一般	4	2		1					家庭基礎	2	2										2
	食物	2							2	家庭総合	4											
	保育	2							2	生活技術	4											
										調理	2											
										家庭看護・福祉	2											
										情報 A	2											
情報										情報 B	2											2
										情報 C	2	2										
	教科合計		24	8	22	8	12	5・7	4~12	教科合計		29	2	28	3	12	10	10			0~8	
				32		30		23~29					31		31						22~30	
合計	H	3	1		1			1		H	3	1		1							1	
	R									R												
	合計		33		31		24~30			合計		33		33							24~32	

※1年選択 芸術…音楽 I、美術 I、書道 I から1科目2単位選択
 地歴…日本史 B、地理 B から1科目2単位選択
 理科…化学 I B、生物 I B から1科目4単位選択
 ※2年選択 地歴…日本史 B、地理 B から1科目2単位選択
 理科…物理 I B、化学 I B、生物 I B、地学 I B から1科目4単位選択
 ※3年必修選択 ▲の2科目(5単位)または△印の3科目(7単位)のいずれかを選択

※1年選択 芸術…音楽 I、美術 I、書道 I から1科目2単位選択
 ※2年選択 地歴…日本史 B、地理 B から1科目3単位選択
 ※3年必修選択(理型) 数学 III・数学 C と理科1科目(物理 II・化学 II・生物 II から1科目選択)の10単位
 ※3年必修選択(文型) 古典講読・英語 II と地歴1科目(世界史 B・日本史 B・地理 B から1科目選択)の10単位

富士高校の生徒部

主幹教諭 栞原 信一郎

富士高この10年

富士高校に赴任して6年目、創立90周年を迎えることとなりました。この原稿を書くにあたり、改めて80周年記念誌を読み直し、本校の教職員であった方々の思いを再確認しました。この思いを引き継ぐことが、今後の富士高校、富士高校附属中学校の発展に欠かせないと感じています。

私は、赴任した年に、1学年の担任を任されました。そのとき、先輩の先生方から「生徒に失敗をさせてもいい。生徒は失敗から何かをつかみ、そして成長する。だから安心して生徒に任せてほしい。」と助言されました。この言葉に対する戸惑いは、3年後、担任した生徒が卒業する時、やっと理解することができました。「積極的に失敗から学ばせ成長させる」という指導の在り方は、それまで私が経験した生徒指導とは大きく異なるものでした。今では、これが富士高校の伝統と誇りを作り上げてきたものであると確信しています。生徒部の視点から、この10年を振り返ってみたいと思います。

部活動は、現在、文化部と運動部、あわせて33部が活動しています(表1)。管弦楽部は100名の生徒が所属し、最大の部員数を誇っています。硬式野球部は平成19年度、全国高校野球選手権の西東京大会で準々決勝に進出しました。平成20年度は、剣道部、薙刀部が全国高等学校総合体育大会に出場(剣道部の都立高校のインターハイ出場は32年ぶりのことです)、管弦楽部は、全国高等学校総合文化祭に東京都代表として出場しました。他にも、この10年間に、男子バレーボール部の関東大会出場(2回)、硬式テニス部、バトミントン部の「東京都ベスト16」進出等の実績があります。

体育祭は、騎馬戦、大ムカデ競争、大縄跳びなど、クラスや学年で取り組む種目が行われています。

学年対抗による競技形式は、この10年間、変更はありません。2学年が3学年を抑えて優勝した年が1度ありました。文化祭は、模擬店を出す団体やクラスが減少し、クラス劇が24団体中16団体と増える傾向にあります。合唱祭は、衣装やパフォーマンスに工夫をこらす「お祭り」の要素が減り、外部の専門家に審査員を依頼するなど、より難しい曲に挑戦するといった「コンクール」的な色彩が強くなってきました。これらの行事は、実行委員会の生徒を中心に運営されています。生徒は「失敗から学び成長する」を実践しています。教職員、保護者、地域の方々の温かい眼差しが、生徒の成長を助けてきたものだと思います。

地域との関係では、生徒会活動や「奉仕体験活動」の一環で、生徒が、中野特別支援学校の交流事業や、地域のボランティア活動へ積極的に参加しています。また、文化祭や体育祭、避難訓練など、各行事の案内やお知らせの地域への配布、生徒による冬季の落ち葉清掃、校内放送が必要以上に外部に流れないようにするなど、地域との共存を図っています。

平成20年度から開設準備室が中心となり高等学校の先生方も協力して、附属中学校開校の準備を進めてきました。そして、今年度、創立90周年を迎えると共に附属中学校が開校しました。4月に開校して3ヶ月が経ち、中高連携のおかげで順調に滑り出すことが出来たと思います。今後さらなる充実と発展を目指し、全教員が一丸となってより良い学校を構築していきたいと思っています。

生徒会

● 生徒会の構成メンバー

会長1 副会長1 会計2
書記2 渉外1 監査3

「生徒会の活性化」を掲げ、自主的に活動することを目標とする。

21年度活動実績 生徒会規約の整備、各委員会の活性化、ボランティア活動の積極的参加、全校集会の整列、生徒会主催学校説明会、学校紹介DVDの作成、学校説明会への参加リサイクル活動。

● 生徒会の主な役割

- 対面式・新入生歓迎会企画(毎年4月)・委員会ファイル導入・リサイクル活動
- 生徒会主催学校説明会・ボランティア活動・募金活動(於文化祭)・周年行事企画
- 生徒総会・生徒会規約改正・生徒会予算・生徒会交流・全校集会整列指導等

体育祭

実施形態は、学年対抗によるものを継承。応援団、チアリーディングは、順調。マスコット関係はなし。平成14年度、グラウンド完成後、本校にて実施。大ムカデ、大縄跳び、騎馬戦(男女)は毎

年ほぼ定着。90周年の節目の年である今年度は、中学校と合同の体育祭の実施。実行委員会を中心に入念な準備を進めた結果、無事終了。一般には非公開であるが600名を超える保護者が来校。

平成22年度 体育祭 プログラム

「新たなるスタートを切れ！ 守れ富士高デモクラシー」

1. 開会式 8:40～9:10

司会 2D 斎藤 美咲

(1) 開会の言葉

2G 細谷 貴寛

(2) 聖火入場

(各学年団長)

(3) 学校長挨拶

校長 久永 哲雄

(4) 生徒会長挨拶

3D 福嶋 雅和

(5) 実行委員長挨拶

2E 高野あかり

(6) 競技上の注意

2G 柳田裕一郎

(7) 選手宣誓

2E 熊澤 侑(2年団長)

(8) 準備体操

2C 渡辺 詞音

2. エール交換 9:10～9:30

—— 午前の部 9:40～12:00 ——

3. 短距離走(120m走)

選抜男女

4. 大ムカデリレー 全員参加

5. 障害物リレー 選抜男女

6. 筏流し 中学女子全員と選抜2.3年男子

7. タイヤ引き 中学男子全員と選抜2.3年女子

8. ハリケーン 選抜男女

—— 昼休み(12:00～13:00) ——

*チアガール 12:20～13:00

各学年有志

9. 部活動対抗リレー 有志部活動
 10. 騎馬戦・女子 選抜女子
 11. 騎馬戦・男子 選抜男子
 12. 大玉ころがし 担任団+選抜男女
 13. 大縄跳び 全員参加
 14. 学年対抗スウェーデンリレー 選抜男女
 15. 閉会式 15:20 ~ 15:40
 司会 2D 斎藤 美咲
 (1)成績発表
 2D 小野澤俊哉

- (2)賞状授与
 学校長 久永 哲雄
 (3)学校長講評
 学校長 久永 哲雄
 (4)優勝団長のことば
 (5)実行委員長のことば
 2E 高野あかり
 (6)閉会の言葉
 2A 友部 麻由 2B 藤本 栞

文化祭

3年間の文化祭の傾向としては、クラス劇を行う団体が増えた。24クラス中、平成21年度は17団体が劇であった。代わりに模擬店が減少。平成21年度は定時制と合同実施。(焼きそばを出店)後夜

祭の花火は、専門家による本格的なものに平成18年から移行。近隣の方々からも好評。平成22年度から中学生と合同実施。毎年4,000人以上の来校者あり。

合唱祭

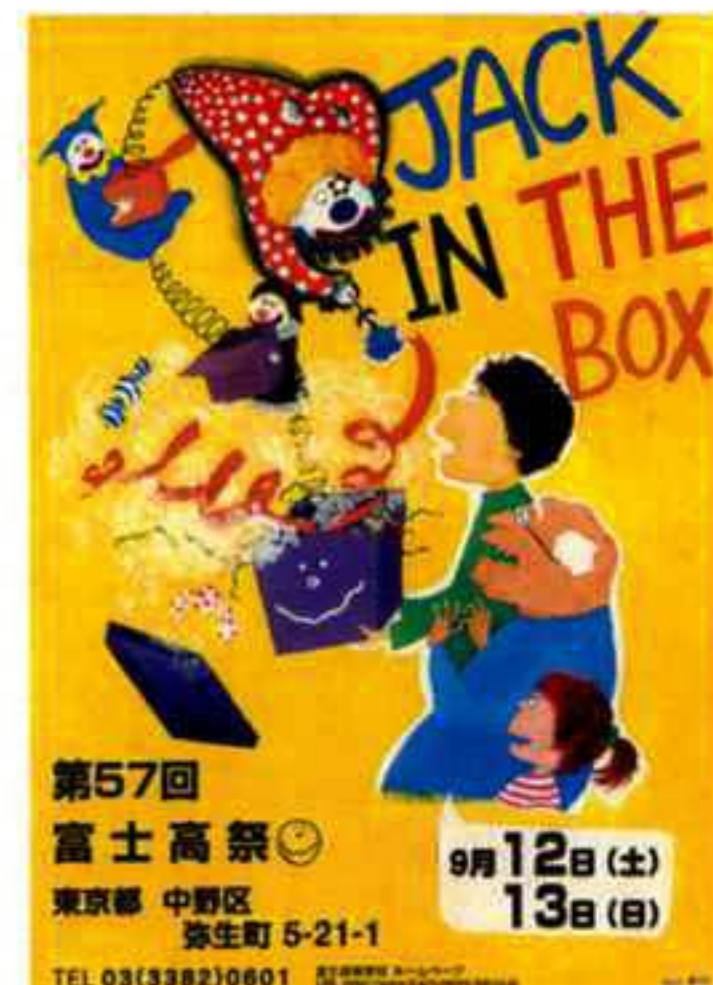
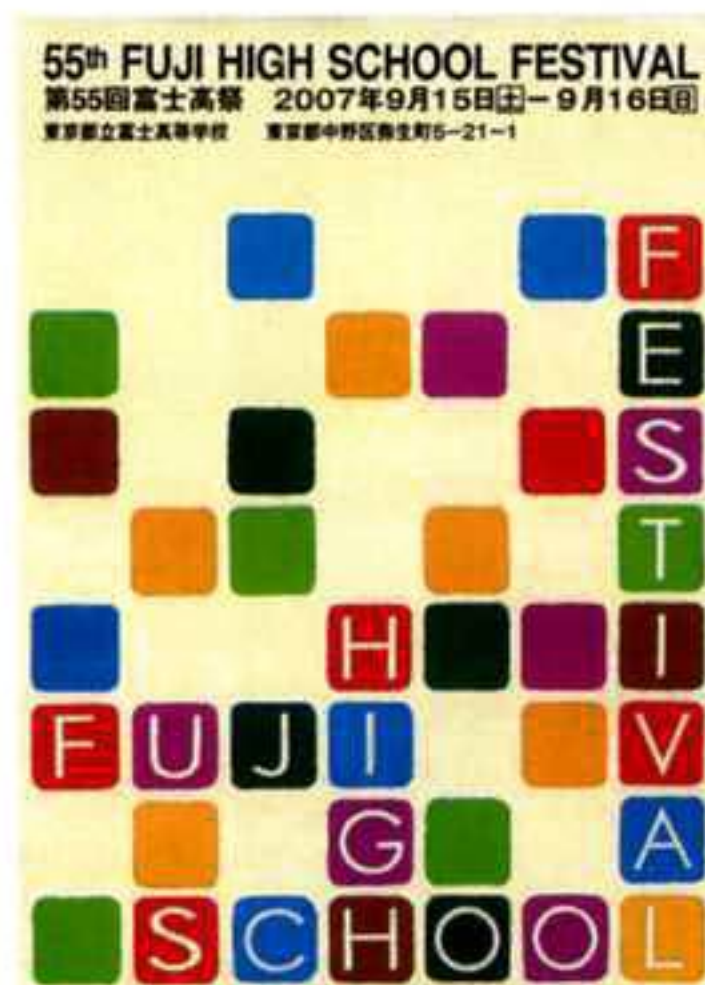
なかのZERO大ホールにて2月に開催(平成15年 練馬文化センター、20年杉並公会堂)。参加学年1、2年生。各クラス課題曲1曲(2年アカペラ 1年校

歌)自由曲1曲を発表。平成19年度より外部審査員を依頼。平成21年来客数365名。平成22年度から中学生と合同実施。

生徒会・体育祭・文化祭・合唱祭 10年の歩み

年度	生徒会長		体育祭	文化祭	合唱祭
平成13年度	2D 多田 緑	委員長	2D 脇田和歌子	2B 奥田 豊	2D 吉成三貴
		実施日	6月6日(水)	9月15日(土) 9月16日(日)	なかのZEROホール 2月7日(木)
		スローガン テーマ		「富士高 祭」	
平成14年度	2H 橋本亮介	委員長	2F 菅野まりえ	2C 藤田幸太	2E 境 美代子
		実施日	6月5日(水)	9月14日(土) 9月15日(日)	なかのZEROホール 2月6日(木)
		スローガン テーマ			「歌っていいとも」
平成15年度	1D 遠藤竜太	委員長	2E 浅井宏美	2H 絹川みずき	2E 林 裕也
		実施日	5月23日(金)	9月20日(土) 9月21日(日)	練馬文化センター 2月6日(木)
		スローガン テーマ		「踊る大富士高祭」	「完全燃唱」

年度	生徒会長		体育祭実行	文化祭実行	合唱祭実行
平成16年度	2G遠藤竜太	委員長	2A杉浦美幸	2E藤井順子	2H菅野あゆみ
		実施日	5月21日(金)	9月18日(土) 9月19日(日)	なかのZEROホール 2月2日(水)
		スローガン テーマ		「きっかけは 富士」	
平成16年度	2C園田奈津希	委員長	2H古田一晃	2A大木亜実	2F内藤穰二
		実施日	5月20日(金)	9月18日(土) 9月19日(日)	なかのZEROホール 2月2日(木)
		スローガン テーマ		「そうだ!富士に行こう」	
平成18年度	2E蔵敷晴香	委員長	2F黒田竜太郎	2D得意千照	2D武井千果
		実施日	5月23日(火)	9月16日(土) 9月17日(日)	なかのZEROホール 2月15日(木)
		スローガン テーマ		「世界にリンク!! 富士高 ジャパン」	
平成19年度	2A伊藤 唯	委員長	2H中島賢人	2D美谷島克基	2F成田瑞希
		実施日	5月23日(水)	9月15日(土) 9月16日(日)	なかのZEROホール 2月12日(火)
		スローガン テーマ		「花鳥風月」	
平成20年度	2E高木真一	委員長	2H渡口聖仁	2A木室啓介	2D山口 桃
		実施日	5月23日(金)	9月13日(土) 9月14日(日)	杉並公会堂 2月13日(金)
		スローガン テーマ	「記録より記憶!! 輝け心 の金メダル」	「夢」	
平成21年度	2D福嶋雅和	委員長	2H青井優人	2D秋谷紫苑	2D塚越仁美
		実施日	5月22日(金)	9月12日(土) 9月13日(日)	なかのZEROホール2月 17日(木)
		スローガン テーマ	「伝統のバトンをつなげ! 魅せる富士の底力」	「JACK-IN-THE-BOX」	
平成22年度	2A穴澤春香	委員長	2E高野あかり	2G仲田結衣	2E鈴木亮佑
		実施日	6月4日(金)	9月11日(土) 9月12日(日)	なかのZEROホール 2月17日(木)
		スローガン テーマ	「新たなるスタートを切れ! 守れ富士高デモクラシー」	「新党! たちあがれ富士」	



部活動推進校

平成22年から平成23年まで2年間指定。現在の部活動は文化部16、運動部17の33部活。22年度推進部活動は、女子バスケットボール、水泳、女子

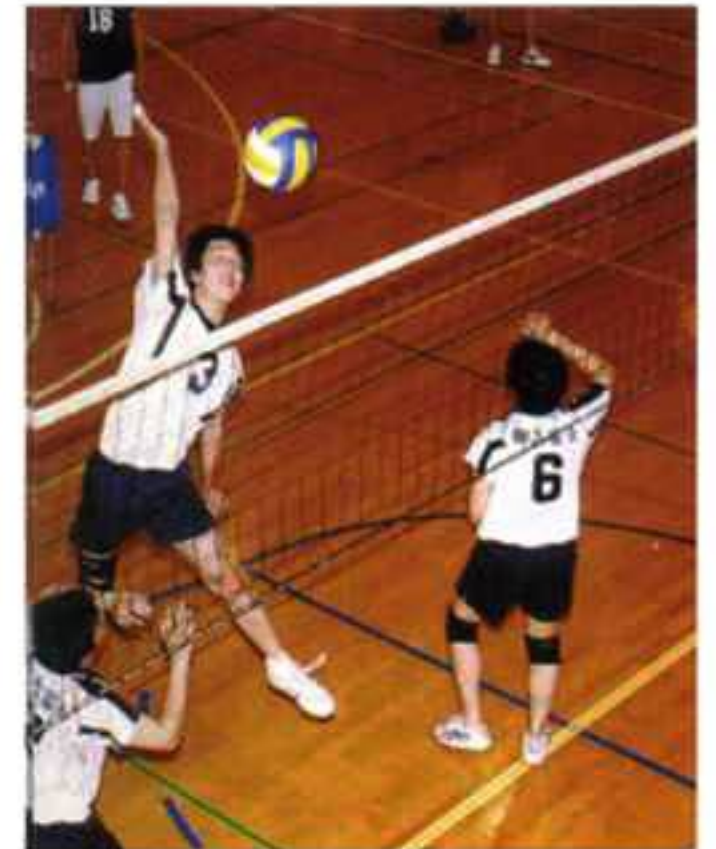
バレーボール、バドミントン、剣道、ギター、合唱、ESSに決定。

2010年度 部活動 部員数一覧

運動部		人数	文化部		人数
1	男子バスケットボール	33	1	ESS	10
2	女子バスケットボール	30	2	化学	7
3	男子バレーボール	22	3	天文	52
4	女子バレーボール	15	4	美術	12
5	バドミントン	33	5	写真	20
6	剣道	37	6	放送	11
7	卓球	26	7	管弦楽	89
8	薙刀	12	8	調理	20
9	ソフトテニス	29	9	ギター	6
10	男子硬式テニス	40	10	合唱	18
11	女子硬式テニス	20	11	軽音楽	90
12	硬式野球	37	12	茶道	12
13	サッカー	40	13	演劇	16
14	アメリカンフットボール	43	14	生物	18
15	ソフトボール	11	15	文芸	29
16	陸上競技	41	16	物理	10
17	水泳	31	合計		420
合計		500			

平成22年度

*部活動加入率 全校生徒 846名 全体加入人数 920名 109.5%



男子バレーボール



サッカー



アメリカンフットボール



軽音楽



男子バスケットボール



野球



薙刀



女子バスケットボール



卓球



バドミントン



化学



演劇



美術



茶道



女子バレーボール



物理

組織的計画的な進路指導態勢の構築を目指して

主幹教諭 細田 盛夫

都立進学校の建て直しを進めている都の動きに沿った形で、本校も組織的計画的な進路指導体制を構築すべく動き出したのが、平成15年度頃からである。進路室を整備し、主任が常駐するように努め、「進路部通信」を発行するなど改革への第一歩を踏み出した。しかし、当時は校内の共通理解を得ることが難しく、せっかく発行した進路部通信も生徒の手に渡ることなく破棄されるようなこともあったという。それでも平成17年度末までには進路室の整備が進み、各大学から送られてくる大学案内等の資料を収納するボックスを購入してラベルを貼り、棚に整理して、生徒の利便を図るようになった。また、学年の積極的な取り組みで始まった「学部・学科説明会」や卒業生との「進路懇談会」なども定着してきた。

平成18年度からは進路部として本格的に改革に取り組んだ。学年主導で進められていた学部・学科説明会や進路懇談会および保護者への進路説明会などの進路行事の企画・運営を進路部が行うこととなり、学年の協力もあって組織的な取り組みが一気に進んだ。また、この年より「進路部通信」(B4判)が月に2回程度定期的に発行されることになったが、以前とは異なり生徒に配布する際に一言補足する担任も出てきた。こうしてやや遅れた感はあったが、本校も他の進学校同様に学校をあげて進路指導に組織的計画的に取り組む動きが強まった。

22年度からは毎週火曜日の放課後7,8時限目に進路部会を開催することとなった。時間割編制上どうしても進路部会とHRの時間が重複してしまった。そのため担任を交えた日常的な話し合いができにくい状況があった。

放課後とはいえ進路の定例部会が開催できるよ

うになったので、進路部と学年との意思疎通が格段に良くなった。こうした学年・担任の協力姿勢の背景には、組織的な進路指導の必要性に対する意識の高まりがある。

1 進路基本計画の策定から「進路シラバス」へ

まず取り組んだのが、進路基本計画の策定である。進学校としての本校の進路目標を明確化し、その実現のための方針と方策を策定した。従来学年主体で実施していた各種進路行事は、学年の協力を得て進路部が統括するようにし、3年間を見通した進路指導計画の中に明確に位置付けて年間行事計画作成に臨んだ。この進路基本計画および進路行事計画は毎年少しずつ手直しして、平成21年度に「進路シラバス」という形にまとめることができた。進路シラバスでは本校におけるキャリア教育の基本方針及び年間計画も取り上げ、それとの関連で進路基本計画を定めている。また、各進路行事の目標やねらい、内容や時程・会場、使用する資料に加え、評価の観点も盛り込んだ。

21年度には翌年度の附属中学校開校を受けて、中高6年間の進路指導全体計画の策定に乗り出した。進路指導の観点からは、附属中学校の生徒の質がこれまでの富士高校の生徒の質と大きく変わらないとの見解に立ち、高校の進路指導計画を十分活かしながらそれに無理なくつながる進路指導計画を作成した。こうして新たに中高一貫の6年間をカバーする新しい「進路シラバス」が完成したので、22年4月当初に冊子としてまとめたものを教員全員に配布し、内容を説明して進路指導に対する校内の共通認識・共通理解の形成を図った。

2 各種の取り組み

(1) 進路行事

20年度から教育課程が変更となって高2、高3の総合的な学習の時間に進路学習を組み込むこととなり、系統的できめ細かい進路指導が可能となる時間的枠組が保障された。そこで、完成年度の22年度は総合委員会と連携しつつ、進路部が中心となって総合的な学習の時間及びホームルームの時間の年間授業計画を立案した。こうして1学年から3学年まで3年間の系統性のある進路指導ができるようになった。各学年共に進路ガイダンスⅠ・Ⅱ・Ⅲおよびキャリアセミナーを中心に展開するが、他にこの2～3年の間にさまざまな業者から持ち込まれた進路指導プログラムを採用し、多彩な進路学習の機会を設定している。「夢ナビ・ワードアプローチ」や「受験日程作成シミュレーション」などグループワークを取り入れた行事もある(表1参照)。

(2) 模擬試験

18年度以降、各学年で担当していた模擬試験も進路部が統括する方式に変更した。学年ごとに採用を検討していた模擬試験も、19年度入学生の模試から統一することを当該学年とも協議して決め、他学年にも協力を求めることで校内模試の一元化を図った。同時に、学習状況調査(スタディーサポート)も導入し、生徒の学習状況の把握にも努めることにした。21年度からは成績処理システム(ファインシステム)を導入し、担任による模試成績管理と出願指導を支援する道を開いた。高3生の模試はセンター試験を念頭に置き、19年度以降マーク模試を中心に実施していたが、私大志望者が多い本校の実情を考え、22年度からは従来のマーク模試に加え、10月に記述模試を全員対象に実施することになった。現在、校内模試は学習状況調査を含め各学年3回実施している(表1参照)。

(3) センター試験対策

リアルタイムセンター試験体験は、修学旅行の振替休業日を利用して高2の希望者対象に行っていた。ところが21年度は修学旅行の日程から振替休業日の調整がつかなくなり、そこで臨時的に校内で授業を振り替えて全員対象で実施することにした。9割以上がセンター試験を受験する本校では、丁度1年前と言うことで生徒にはよい刺激となる。せっかく全員対象に実施することになったので、進路部としては継続する希望を持っていたが、翌年度から修学旅行の日程が3月に変更になり、校内で全員対象に実施するのは困難となって、この単年度のみで消えることになった。その後は、従来通り希望者のみの参加となっている。

高3生対象にセンター試験本番の1ヶ月前の12月中旬に、センター試験当日と全く同じ時程で模試を実施する「センター試験まるごと体験」は21年度から始まった。この2・3年センター試験本番でのつまらないミスを犯す生徒が目立つようになったし、また、同じような指摘が他でも聞かれるようになった。2日間にわたって朝早くから夕刻遅くまでかかる試験であり、教員に多大な負担がかかるが、学年の協力もあって実施することになった。当日の参加者は約200名と、センター試験受験を本気に考えている生徒の大半が受験した。通常の模擬試験では体験することができない長い時間と緊張感を味わい、本番では落ち着いて試験に取り組めたと喜んだ生徒が多かった。22年度も実施予定である。

(4) 保護者向け進路説明会

平成18年の6月に行った保護者向け進路説明会では時間が短かった上に外部講師のみの講話であったため、保護者の一部から学校の姿勢について厳しい批判をいただいた。そこで、次年度からは進路部主任が直接保護者に語る形式に改めること、テーマを絞って各学年ごとに開催すること、十分な時間を確保するために会場を多目的室とし、スペースの関係上4クラスずつ2展開で実施

すること、に改め、年間行事計画に組み込んだ。3年保護者向けの進路説明会は従来通り5月から6月頃に行い、新たに、1年生保護者向け進路説明会は1月に、2年生保護者向け進路説明会は2月に開催することにした。それぞれが2展開での実施なので進路主任としては年間6回講話することになった。

(5)校内進路研修会等

外部模試を採用したことで外部講師による校内研修会も企画できるようになった。そこで19年度以降以下のような各種研修会を実施している。学習状況調査や模試の成績が返却されるごとに行う「模試結果分析協議会」、大学入試の最新の情報を提供する「大学入試結果分析協議会」と「入試動向研究協議会」である。22年度には中学を含む6年間の指導のあり方を協議する「中高一貫教育研究協議会」も予定している。近年は校外で開催される進路研修会への参加も担任中心に活発化している。

(6)その他

(ア)指定校推薦校内選考基準の見直し

指定校の校内推薦基準については、学年ごとに柔軟な対応をしてきた。しかし、学校としての基準を明確にし、一貫性を確保することが必要との判断から平成17年度に議論を深め、改訂作業を進めた。18年度から細部の詰めを行い、新しい基準を作成し実施した。この結果、学年間での指導にぶれはなくなったが、指定校推薦の校内出願資格を非公表とした点が問題として残った。特に、欠席・遅刻・早退の基準数を上回る生徒の扱いに苦労した。また、推薦にふさわしくない生徒も出願の意向を示すようになり、校内の出願資格については公開した方がよいのではないかという意見がまとまり、22年度からは校内選考基準の公開に踏み切った。

①欠席・遅刻・早退の回数上限、②未修得科目の有無、③特別指導の有無の3点について

は生徒に明示することにした。非公開から公開へと変更することに伴って生起する問題を予想し、進路部内で慎重に協議した結果、欠席日数・遅刻・早退回数の上限を厳しく下方修正した新基準を示すことにした。しかし、在校生は旧来の基準で選考することとし、新基準の適用は22年度入学生からとした。そのために21年度入学生が卒業するまでは校内選考基準については口頭で示すにとどめることにした。

(イ)進路室の拡張

進路室が狭く、教員の執務コーナーが部屋の奥、手前廊下側が生徒の進路資料閲覧コーナーとなっていた。そのために、教員の話や電話の対応の声も筒抜けであるし、進路相談に訪れた生徒のプライバシーの確保も難しい面があった。会議や来校者の対応もここで行うほかなく、場合によっては生徒の利用を制限していた。平成22年度になって、附属中学校開校に伴う校内改修工事の一貫として進路室の拡張が計画された。隣接する相談室を進路資料室とし、これまでの進路室は教員専用の部屋となる。両部屋の間は行き来ができるドア付きの仕切壁とし、また、窓も付けて進路資料室内の様子が教員からよく見えるように配慮した。廊下側の仕切壁も更新され、大きな窓が付き開放的な進路資料室となり、さらに充実した進路指導ができるようになった。

表1 富士高等学校・附属中学校進路指導の取り組み

進路ガイダンス	学年	実施時期	内容	備考
進路ガイダンス	中1	4月	中学での学習と進路学習	総合ガイダンスの中で実施
進路ガイダンスⅠ	高1	4月	高校での学習と進路	全体集会、進路部より講話
進路ガイダンスⅡ		9月	学部学科と科目選択	進路部より講話
進路ガイダンスⅢ		3月	大学・学部学科調べ	リクルート進路冊子を使用、調べ学習
進路ガイダンスⅠ	高2	4月	2年次の進路学習	全体集会、進路部より講話
進路ガイダンスⅡ		10月	入試と高校の学習方法	ベネッセ講師による講話
進路ガイダンスⅢ		3月	受験日程作成シミュレーション	資料活用学習
進路ガイダンスⅠ	高3	4月	3年次の進路の流れ	全体集会、進路部より講話
進路ガイダンスⅡ		6月	今春の入試動向説明会	全体集会、進路部より講話
進路ガイダンスⅢ		10月	入試説明会	MARCHクラスの大学入試担当者から直接説明
キャリアセミナーⅠ	中1	3月	ものづくりの世界/和菓子職人	講演会
キャリア・セミナーⅣ	高1	1月	資格と職業	全体集会、進路部より講話
キャリア・セミナーⅤ	高2	1、2月	職業と人生	社会人講師による講演、4クラスずつ2回
キャリア・セミナーⅥ	高3	11月	大学におけるキャリア教育	2大学に依頼

進路行事	学年	実施時期	内容	備考
進路探究	中1	6、2月	いろいろな仕事・職場学習	調べ学習と発表
学部学科説明会	高2	6月	学部学科紹介と出前授業	2回に分けて実施。1回に8～10大学
推薦説明会	高3	7月	指定校推薦中心の説明会	AO入試、自己推薦、公募推薦にも言及
大学訪問	全学年	8月	大学2校訪問・レポート作成	事前にオープンキャンパス情報誌を配付
看護・医療系説明会	希望者	12月	看護・医療系進学について	講師は新宿セミナーに依頼
法・経済系資格セミナー	希望者	12月	司法書士・公認会計士等とは	法・経済系学部指定校合格者必須

特色ある進路行事	学年	実施時期	内容	備考
ホスタビュー・ホスタップ	中1・高1	6月/10月	家庭学習充実への取り組み	自己記録式、10月はホスタップのみ実施
夢ナビ・ワードアプローチ	高1、2	秋	関心ある用語から学問分野を探る	回答返却は1ヶ月ほど後
リアルタイムセンター試験体験	2年希望者	1月	センター試験体験	校外にて実施
センター試験まるごと体験	3年希望者	12月	センター模擬体験	2日間、センター試験と同じ時程、模試問題を使用

模擬試験等	学年	実施時期	内容	備考
学習到達度確認テスト	中1	11、2月	記述	ベネッセ
学力テストⅠ	高1、2	7、11月	記述	ベネッセ
模試Ⅰ、Ⅱ	高3	6、9月	マーク	ベネッセ・駿台総合模試
模試Ⅲ	高3	10月	記述	ベネッセ・駿台総合模試
4月スタートテスト	中1、高1	4月	入学までの学習習慣の確認	ベネッセ
3月振り返りテスト	高1年	3月	1年次の学習の振り返り	ベネッセ：学習状況調査2年4月用
3月振り返りテスト	高2年	3月	2年次の学習の振り返り	ベネッセ：学習状況調査3年4月用

保護者対象	学年	実施時期	内容	備考
保護者対象進路説明会	中1	未定	6年間の進路指導	高校の進路指導についても紹介
保護者対象進路説明会	高1	1月	大学入試の概要他	学年保護者会やPTAの集会と重なるので、13:00～14:00の時間帯になる可能性が高い。
保護者対象進路説明会	高2	2月	本年度のセンター試験結果他	
保護者対象進路説明会	高3	7月	前年度の入試結果・入試動向他	

教員向け 他に適宜開催	学年	実施時期	内容	備考
中高一貫進路指導研究協議会	中全	未定	6年間の進路指導のあり方と課題	講師：ベネッセ
大学入試結果分析協議会	全	6月	22年度の入試結果について	講師：ベネッセ
大学入試動向研究協議会	全	11月	次年度入試の動きについて	講師：ベネッセ
出願指導研究協議会	3年	10月	効果的な出願指導を目指して	3学年団中心に。
模試結果分析協議会	全	実施1月後	模試結果に見られる学習状況	スタートテスト・振り返りテストも含む。2学年中心に。
3年・2年学年団進路懇談会	2、3年	3月	3年次の進路指導について	情報交換、2学年団主体で。

進路決定先	年度		2001		2002		2003		2004		2005		2006		2007		2008		2009		2010	
	国公立	私立	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
大学	25	159	8%	48%	15	37%	10	46%	9	48%	10	54%	13	57%	17	54%	14	52%	20	53%	17	53%
その他の大学	0	0	0%	0%	3	1%	0	0%	1	0%	0	0%	1	0%	5	2%	1	0%	1	0%	1	0%
短大	6	6	2%	2%	9	3%	6	2%	12	4%	6	2%	6	2%	2	1%	6	2%	2	1%	1	0%
専門学校	17	17	5%	5%	5	2%	10	3%	7	2%	9	3%	11	3%	16	5%	5	2%	7	2%	9	3%
就職	0	0	0%	0%	0	0%	2	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
予備校等	122	122	37%	37%	170	53%	148	46%	142	43%	122	38%	109	34%	109	34%	125	40%	117	37%	91	29%
進路決定数	207	207	63%	63%	149	47%	177	54%	187	57%	197	62%	214	66%	213	66%	190	60%	199	63%	225	71%
卒業生徒数	329	329	100%	100%	319	100%	325	100%	329	100%	319	100%	323	100%	322	100%	315	100%	316	100%	316	100%

国立大学合格者推移

国公立大学	'01 合格者		'02 合格者		'03 合格者		'04 合格者		'05 合格者		'06 合格者		'07 合格者		'08 合格者		'09 合格者		'10 合格者	
	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計
群馬大学	0	2	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
埼玉大学	3	4	0	2	2	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
千葉大学	3	5	2	4	2	3	1	2	2	3	3	3	1	1	0	2	0	0	0	0
東京海洋大学	1	2	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	2	2	2	3	0	0
電気通信大学	4	5	0	1	0	2	0	1	0	1	2	2	0	0	0	1	2	2	0	0
東京大学	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
東京医科歯科大学	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
東京外国語大学	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	1	3	4	1	1	0	0
東京学芸大学	3	6	2	3	1	6	1	3	3	5	1	3	6	7	2	2	3	5	3	4
東京芸術大学	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	2	0	0	0	0	0	2
東京工業大学	0	0	2	2	0	3	0	1	0	2	0	2	0	0	1	1	0	0	1	1
東京農工大学	3	4	1	5	1	3	1	1	2	5	0	1	1	2	0	1	3	4	1	3
横浜国立大学	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
富山大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
富山医科薬科大学	0	0	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山梨大学	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	2
新潟大学	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上越教育大学	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
信州大学	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1
秋田大学	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
東北大学	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	1	2	0	0
一橋大学	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0
岐阜大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
広島大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
旭川医科大学	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北海道大学	0	1	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
北海道教育大学	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
弘前大学	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岩手大学	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宮城大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
筑波大学	1	1	0	0	0	0	2	2	0	1	1	2	1	1	0	1	0	0	0	0
茨城大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0
お茶の水女子大学	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
金沢大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
名古屋大学	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
京都大学	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
大阪大学	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神戸大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
島根大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高知大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
高知医科大学	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
愛媛大学	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
徳島大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
鹿児島大学	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
琉球大学	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
九州大学	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国際教養大学	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
会津大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
茨城県立医療大学	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前橋工科大学	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
埼玉県立大学	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1
東京都立保健科学大学	0	0	2	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
首都大東京	5	6	1	3	2	6	3	4	3	6	3	5	3	4	3	5	4	8	10	12
東京都立科学技術大学	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横浜国立大学	0	1	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0
都留文科大学	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山梨県立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
静岡県立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
愛知県立大学	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岐阜県立大学	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石川県立看護大学	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
奈良県立商科大学	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
京都府立大学	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大阪市立大学	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大阪府立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
広島県立大学	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大分県立看護科学大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
国公立大学 計	29	53	16	41	11	45	10	28	13	31	14	29	19	24	15	28	21	33	21	31

主な私立大学合格者推移

私立大学	'01 合格者		'02 合格者		'03 合格者		'04 合格者		'05 合格者		'06 合格者		'07 合格者		'08 合格者		'09 合格者		'10 合格者	
	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計	現役	合計
慶應義塾大学	8	11	5	12	5	11	6	9	5	12	5	12	7	13	9	13	5	7	4	6
早稲田大学	21	29	11	25	20	46	15	44	21	52	14	47	14	30	26	48	14	30	17	20
上智大学	11	14	7	10	4	11	6	7	7	11	7	13	4	10	2	6	4	6	6	7
東京理科大学	6	16	8	19	5	23	1	16	7	25	6	25	23	35	9	18	13	19	13	22
明治大学	32	47	14	32	21	44	24	47	25	54	21	47	32	50	33	50	33	52	37	55
青山学院大学	10	19	7	10	12	20	16	27	12	19	14	20	15	18	13	19	13	20	9	16
立教大学	10	21	9	19	10	19	10	21	19	40	24	33	25	42	20	29	19	33	22	29
中央大学	33	47	13	26	29	43	21	36	23	37	18	30	26	32	17	25	25	40	12	22
法政大学	25	40	9	19	18	33	25	45	26	36	19	32	27	45	13	28	29	52	25	48
学習院大学	12	28	13	16	14	17	8	13	13	20	8	14	7	11	6	13	14	19	6	16
成蹊大学	14	31	10	19	10	21	18	26	22	35	16	21	9	16	18	22	17	20	23	30
成城大学	8	8	8	9	7	13	2	5	10	13	5	5	2	10	8	12	2	7	3	7
明治学院大学	9	13	4	10	4	12	4	12	4	16	18	24	10	22	10	12	11	19	9	17
武蔵大学	17	26	7	22	8	10	5	11	10	16	17	19	8	17	10	14	1	10	7	15
津田塾大学	1	3	1	1	0	2	2	2	5	5	1	2	4	4	1	3	1	1	3	4
日本女子大学	4	5	3	6	10	15	9	13	10	12	4	9	4	4	13	17	6	8	13	17
東京女子大学	9	16	4	4	5	7	3	5	11	15	6	7	17	19	9	10	2	4	7	10
日本大学	23	42	17	37	20	39	17	34	21	34	26	49	44	71	34	57	40	60	45	70
東洋大学	14	30	3	18	7	19	7	17	5	6	22	35	16	37	15	26	8	28	24	29
駒澤大学	2	5	1	6	9	12	5	8	12	23	16	20	12	16	13	16	15	21	8	19
専修大学	10	17	1	8	13	18	7	12	8	15	17	28	18	21	4	8	8	14	18	26
北里大学	4	7	7	11	0	2	3	6	2	6	6	11	5	8	5	7	5	6	7	9
昭和薬科大学	1	2	0	2	1	2	0	3	0	0	0	2	1	2	1	1	0	1	0	0
東京薬科大学	0	2	0	1	1	3	2	5	0	2	2	4	0	1	2	2	2	4	0	0
星薬科大学	0	0	0	1	0	0	1	3	0	1	0	2	1	1	0	2	2	4	0	0
明治薬科大学	1	1	1	2	2	2	1	2	1	4	1	6	2	3	2	2	1	2	2	2
工学院大学	1	7	3	8	2	10	3	7	5	7	5	9	5	7	7	7	3	6	7	17
芝浦工業大学	4	6	3	14	5	12	8	14	14	21	8	16	17	23	8	10	11	16	22	26
東京電機大学	3	3	2	6	2	5	3	10	5	9	10	12	6	10	4	4	7	9	7	12
東京都市大学	5	7	2	9	2	12	3	8	5	8	6	12	3	5	2	6	4	8	5	10
東京農業大学	6	12	3	7	4	9	3	6	6	6	17	24	16	17	18	25	4	11	18	19
東京女子医大	1	1	1	1	0	0	0	0	1	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1
亜細亜大学	1	1	5	6	4	6	1	4	5	7	2	8	6	9	5	5	5	8	7	7
大妻女子大学	2	3	1	1	2	2	4	6	4	4	6	7	3	3	8	8	2	2	8	8
桜美林大学	1	1	2	3	2	4	1	4	2	2	4	5	3	3	2	2	2	2	5	5
学習院女子大学	1	1	2	2	0	0	1	1	3	4	2	3	0	2	2	0	0	0	0	1
神奈川大学	3	6	2	4	3	5	2	4	0	1	2	3	0	1	5	5	4	6	4	4
共立女子大学	1	1	1	2	1	3	4	4	1	2	2	3	0	1	6	7	3	4	2	4
杏林大学	0	3	1	2	2	7	1	1	1	2	1	1	0	0	3	3	3	4	1	1
国立音楽大学	3	4	0	1	1	1	0	0	2	5	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0
国学院大学	1	10	4	6	8	9	0	0	7	13	10	11	6	6	0	4	4	6	4	7
国際基督教大学	1	2	1	1	0	0	1	2	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0
国土館大学	1	1	0	4	3	5	1	1	1	3	2	5	2	2	0	0	3	3	2	2
実践女子大学	1	1	1	2	2	3	2	4	3	3	3	3	1	1	2	1	1	1	6	6
順天堂大学	0	1	0	0	0	0	2	3	0	0	2	3	3	5	0	2	3	3	1	2
城西大学	3	4	0	1	1	4	0	0	0	0	0	2	0	1	2	3	1	1	2	2
昭和大学	0	2	0	1	0	1	0	2	1	1	0	0	1	2	0	2	0	0	0	0
昭和女子大学	0	0	2	2	1	1	3	4	6	7	2	2	1	1	4	4	5	6	5	7
女子栄養大学	0	0	0	0	0	1	2	2	1	1	1	1	0	0	3	3	1	2	2	2
白百合女子大学	0	0	3	3	2	3	5	6	0	3	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3
聖心女子大学	0	0	1	2	2	2	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0
清泉女子大学	1	1	0	0	0	0	2	3	3	3	0	0	3	3	3	3	0	0	4	4
聖路加看護大学	1	1	2	3	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0
大東文化大学	4	5	1	2	4	5	0	3	3	4	2	2	2	2	3	3	0	0	5	5
玉川大学	2	3	1	2	2	4	1	4	2	2	8	10	3	5	2	2	2	4	4	4
多摩美術大学	1	1	1	2	2	3	2	6	0	4	1	1	1	2	2	2	0	0	1	2
帝京大学	2	3	0	1	3	4	2	9	1	2	4	4	5	8	2	4	7	8	6	8
東海大学	2	9	3	6	2	6	1	4	1	2	4	6	3	4	4	6	4	4	1	2
東京家政大学	1	2	0	1	4	6	3	5	6	7	4	4	4	4	3	7	7	7	7	7
東京経済大学	3	5	3	4	1	4	2	2	2	2	3	4	6	6	1	4	0	3	2	3
東京工科大学	2	2	0	0	2	6	5	5	2	3	4	5	2	2	1	1	5	5	4	4
同志社大学	0	1	0	1	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
東邦大学	1	2	0	2	0	1	0	6	1	3	2	5	0	1	4	5	4	5	0	2
東洋英和女学院大学	1	2	5	5	2	2	1	3	2	3	4	4	1	1	0	0	0	0	1	1
獨協大学	4	7	2	7	2	5	1	2	4	4	9	11	5	7	2	3	0	3	1	2
日本赤十字看護大学	1	1	1	3	0	1	1	1	0	0	0	0	1	1	2	2	0	0	0	0
日本社会事業大学	4	4	1	2	0	0	0	2	1	2	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1
日本獣医生命科学大学	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	2	2	2	2	2	2	1	1
日本女子体育大学	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	3	3	2	2	2	2	2	2	1	1
日本体育大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0
文化女子大学	0	0	0	0	2	2	3	4	1	2	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1
文教大学	1	1	0	0	6	8	1	5	1	2	0	1	3	3	0	0	5	5	1	1
武蔵野大学	0	0	0	0	0	0	4	6	4	8	7	14	10	11	8	10	6	7	6	6
武蔵野音楽大学	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	2	2	0	0	1	1	1	1	0	0
武蔵野美術大学	1	1	1	4	0	4	5	11	1	5	1	3	2	2	1	1	11	14	0	1
明星大学	1	2	1	1	1	2	1	2	0	1	2	3	2	6	3	3	1	1	0	0
目白大学	0	0	0	0	0	1	3	3	2	2	2	2	4	5	3	4	7	8	3	4
立正大学	1	1	1	2	0	2	1	3	0	1	0	0	3	3	0	1	0	0	3	3
立命館大学	2	10	0	2	3	4	0	7	2	2	0	3	0	0	1	1	0	1	1	1
その他 私立大学	21	36	25	43	24	54	15	38	40	51	33	49	22	31	24	34	22	31	25	33
私立大学 計	382	658	253	528	348	677	323	660	431	736	478	789	500	757	456	670	445	700	511	740

富士高等学校附属中学校

副校長 高澤 功

平成20年度に、中野地区中高一貫校開設準備室に着任しました。富士高校の生徒は、「自主自律」「文武両道」をモットーに、学習や部活動に意欲的に励みすばらしい成果をあげています。また、第五高等女学校のよき伝統を継承し、品位ある言葉遣いの生徒が多くいます。このことは、附属中学の生徒が3年後に富士高校に進学したとき、この水準またはそれ以上になっていなければならないことを意味します。これは、私にとって非常に大きい職責が与えられたという想いです。

私は、富士高等学校の先生方が検討された中野地区中高一貫6年制学校基本計画を熟読することから始めました。先生方の附属中学を開校する上での想いをそこから汲み取ることができました。育てたい生徒像は「高い知性と教養を身につけ、社会の様々な分野で活躍し貢献できる生徒」「個性豊かで協調性に富むバランスのとれた魅力ある生徒」「志が高く積極的に自ら考え判断し挑戦していく精神をもち、社会でリーダーとして活躍できる生徒」であり、それを富士山になぞらえると、まさしく麓から頂上の高みを目指すように、一步一步歩み、6年間の一貫教育を通して、「知性と教養」を高め「品性と感性」を磨き「リーダーシップ」を育てることになるのでしょう。

平成20年度は私の他3名の先生を含めて4名体制で準備を始めました。富士山になぞらえたイメージ図を、具体的な教育活動に落とし込んだ構造図を作成しました。附属中学校にふさわしい生徒を育てるためには、どのような特色ある教育活動が必要であるかを考えました。もちろんその土台には、基礎基本となる授業の充実はもとより、進路指導計画や学校行事、部活動があります。まずそこから、検討を始めました。この作業で特に印象に残っていることは、準備室の先生方はもとより高校の先生方が中高連携に協力的だったことです。中学と高校の先生で授業を乗り入れることがあり、また部活動、行事も中高合同で行うことを考えれば、準備室と高校の連携は必要不可欠とな

ります。準備室に高校より着任した先生がいましたので、その連携は堅固でした。

後は、中学独自の特色ある教育は何かを検討をする日々が続きました。私たちの考えでは十分でないところは、高校の先生の協力や教育推進会議を立ち上げ、3名の学識経験者を含む外部委員の方々のご指導をいただきながら進めました。

特色ある教育活動には最先端の科学学習や瞑想・書写、多読、キャリアセミナー、四季折々の行事等があります。

最先端の科学学習では、東京大学や横浜国立大学との連携を通して講演会や研究所等訪問などを計画し、そのために担当教員が数回打合せを行いました。また、キャリアセミナーの一環として行う職場体験学習では、地域等の協力を得るために地域訪問や担当者との打合せを行うなどをしたり、多読のための蔵書依頼を同窓会にお願いしたりするなど、多忙な日々を送ることになりました。

広報活動にも力をいれてきました。学校説明会や体験学習を行う際には、HPを更新し、常に新しい情報を発信し、先生方で手分けして小学校訪問もしました。

2年目には新たに2名の教員が着任し、6名体制でスタートしました。この年は、入学者決定を行う年で、委託業者との打合せやそれに際して企画室との打合せなど、実際的な業務が増え、初年度購入する備品や消耗品についても、担当を中心にそれぞれの先生に確認するなど、中学の規格に適合するものを選ぶのに苦労しました。

学校説明会も具体的な教育活動を示し、より多くの保護者・生徒に本校の理念を理解してもらうよう努力しました。各担当は教育課程の編成や生活指導、進路指導など、担当した分野をより詳細に説明しました。体験授業も、基本的な5教科を中心に小学生のための教材を用意し、中学校の学習内容に関連づけながら、授業を行いました。生徒の感想にも「楽しかった」というコメントがあり、生徒の知的レベル高さを痛感し、入学式が楽しみになりました。

平成22年度、新たなスタートです。これまで、開設準備にご支援をいただきました方々に感謝申し上げますとともに、今後とも、本校の教育にご協力いただきますよう、よろしくお願い致します。

附属中学校開設によせて

附属中学校1学年 教諭 小岩 寿之

初めて富士高等学校を訪れたのは2年前の3月11日の午後3時でした。前校長の藤井先生との面談が終わり、物理の小菅先生を紹介され、さらに高校から開設準備室に異動した鈴木先生を紹介され、その足で開設準備室となる元生徒会室へ向かいました。春も近いというのに、風が強く、冷たくて薄暗い部屋は閑散としていてまだ何もない状態でした。ここで学校を立ち上げるという大仕事ができるのだろうか？ というのがその時の正直な感想でした。

その後、前任校での残務が月末一杯までかかり、休む暇もなく4月1日に開設準備室へ出勤しました。部屋には新品の机や椅子、ロッカーなどが備えられていて、部屋は明るい日差しが入り、前の印象とは一変していました。これには鈴木先生をはじめ経営企画室の方々のご苦勞があったことを後で知ることになります。高澤副校長先生を紹介され、4人でスタートをしました。初日は、ノート型やミニタワー型のPCをプリンター、コピー機などを含めてLANで接続し、仕事をするための環境整備で終わりました。

今まで経験したことがない、新たに中学校を1つ立ち上げるということは、想像もしなかったことであり、高澤先生がリストアップした職務を見て、その多岐にわたる内容に呆然としました。しかし、気を取り直し、とりあえず必要と思って持ってきた資料を整理し、さらに、足りない情報を入手するために、先行校や他校の先生方と連絡を取り合うことにしました。苦勞したことは、中学校と高校とではいろいろな面でやり方が異なるので(文化の違いという表現がよく使われました)、それをうまく調整してスムーズな導入を図ることでした。先行校において、その違いから様々なトラブルが生じていたことを聞いていたので、その点に配慮して仕事を進めました。

幸いなことに2年目には富士高校から異動した喜代田先生と小林先生の強力なサポートを得て、現在のような他校では見られない協力関係が構築されました。附属中学校は未だスタートしたばかりで多忙な毎日ですが、不慣れな中学1年生を何気ないところで、サポートしてくれている高校生を見ていると、今後の展開に大いに期待ができるという想いで一杯になります。

基本構想委員会から開設準備室、そして附属中学校へ

附属中学校生徒部 主幹教諭 鈴木 理恵

平成14年10月のある日の朝、新聞を見て驚きました。富士高校が平成22年に中高一貫校になると掲載されていたのです。私が富士高に来て2年目のことでした。それを見た時は、「この後どうなるのだろうか。」と不安な気持ちが半分、「きっともう異動しているから関係ないか。」という気持ちが半分、まさか私自身が開設準備をやることになるとは夢にも思いませんでした。

平成18年、19年と2年間に渡って基本構想委員をやらせていただいた時は、江藤先生という素晴らしいまとめ役がいらして、細田先生を始めとした委員の皆さんが頭を絞って考えた内容を、きれいに整理してくださいました。私も文字通り微力ながら、原稿を書いた記憶があります。藤井・前校長や小林・元副校長を始め、個性的な委員の皆さんと共に、和気あいあいと少しずつコンセプトを整えていきました。

平成20年に開く開設準備室へ基本構想委員から誰かという話になった時、自信がないながらも、今までのいきさつも考えて、「私が行きます。」と校長に申し出をしました。全日制生徒会室だった場所(現・書道室)が開設準備室になることになり、生徒会が引っ越した後のガランとした部屋を一人でせっせと掃除したことは忘れられません。

20年4月には、副校長とお二人の先生を、21年には富士高校からお二人の先生をお迎えしました。この2年間に開設準備期間ということになります。

開設準備室時代には学校生活に関係するありとあらゆることをいたしました。生徒にかかわることとして、最初に着手したのが制服でした。藤井先生からのご希望は、それまでの標準服である詰襟とセーラー服のスタイルを残すことでした。生徒や卒業生にもアンケートを取りましたが、やはり残してほしいという要望が非常に強かったので、マイナーチェンジの方向で進めることにしました。ただし、中高で区別がつくようにしなけれ

ばならないので、男子はボタン、女子はリボンの色を変えることにしました。

どこの都立中高一貫校でも大きな問題となっていたのが、部活です。文武両道を掲げて実績も出している富士高校の部活と附属中がどのように共存していくのか、生徒部の乗原先生にいろいろとご助言いただき、何度もすり合わせを行いました。顧問会議なども行った結果、初年度、中学で開く部は中高合同で出来る9つに絞り、徐々に拡大していくことにして、なるべく高校生に影響が出ないようなスタートにしました。

生徒会活動については初年度無理をせず、23年から選挙を行うことにしました。これは先行校を参考にしました。

生徒手帳は、基本的に富士高のスタイルを踏襲しつつ、中学生向けに易しくリライトすることにしました。これも生徒部とご相談の上、中高ともに生徒会組織図を作り直しました。生活面の注意など、どの程度載せておけばいいのかわからず、2年目に書き直すことを覚悟して、基本的な項目にとどめました。

また「英語プログラム」の柱として、多読を導入しようと考えた際、快く多額の書籍購入費を援助して下さった若竹会の皆様には心から感謝しております。おかげ様で新しい試みを実施することができました。

その他、ここに書ききれない様々な問題、施設にかかわるものや学校生活のちょっとしたズレなどを中高で調整するに当たって、教務部松室先生や進路部細田先生に大変助けていただきました。他の先生方にもいろいろな場面で手助けいただき、22年4月、無事開校することが出来ました。一つの学校が立ち上がるシーンに居合わせることができ、合格発表でも入学式でも本当に感無量の思いでした。

今は、新しい学校としての「始まり」に過ぎません。しっかりとした基盤作りのために、今後も皆さんと協力して取り組んでいく所存です。

進路指導について

附属中学校 進路部 主任教諭 木田 秀人

私は、平成20年4月に中高一貫校開設準備室に配属となりました。歴史と伝統ある富士高等学校が中高一貫校としてスタートを切るための準備をしていくことに身が引き締まる思いだったことを思い出します。

なにもかも手探りで諸教育活動を準備していききましたが、たくさんの思いが詰まった「中野地区中高一貫校(仮称)基本計画」のもとに、富士高校の教職員、関係者の方々のご協力で2年間の開設準備を行うことができました。

開設準備室では主に進路指導について担当し、6年間の進路指導計画を基本として、特に中学校段階における進路指導について「学力の向上」と「仕事や職業についての理解を深める」という2つの柱を具現化していきました。

「学力の向上」に向けての具体的方策としては、年3回の学力定着度確認テストを計画しました。年5回の定期テストとは別に3教科を中心として、学力の定着度を試す機会とし、結果については生徒本人が復習等のポイントをつかむことはもちろんのこと、進路部・学年で情報を共有し、保護者に学習状況を周知することとしました。

また、放課後の食堂を自習スペースとして開放し、学習習慣の定着を図る「放課後スタディ」を計画しました。早い時期に自学自習の習慣をつけ、家庭学習を充実させることは学力を向上させるきわめて大切なポイントであると考えました。

「仕事や職業についての理解を深める」ことの具体的方策としては、6年間を見通したキャリアセミナーⅠ～Ⅵを計画しました。特に、中学校段階では、職人さんを招いて匠の世界についての実演や技術開発者を招いて仕事と社会貢献の関係性についての講演を検討しました。講師の依頼にあたっては、富士高等学校の歴史と伝統の深さを実感しました。地域の関係者からは、「富士のためなら」と依頼を快諾していただきました。また、大学や企業の第一線で活躍している同窓生の方々の多大なるご協力のもとに準備をおこなうことができました。

今後は、これまで準備してきた成果を発揮し、生徒が真に希望する進路を実現できるようにきめ細かな進路指導を行っていきます。これまでの開設準備に多大なるご協力をいただいた関係者の方々、大変ありがとうございました。今後とも本校の教育活動にご理解、ご協力の程よろしく願いいたします。

この10年の歩み



平成 13 (2001) 年度

- 4. 6 始業式
- 4. 7 入学式
- 4. 9 対面式、部活動紹介
- 4.26 定期健康診断
- 5. 1 生徒総会
- 5. 2 遠足
- 5.19 「父母と先生の会」総会
- 5.22～25 中間考査
- 5.31～6.1 学力テスト(3年)
- 6. 1 学力テスト(2年)
- 6. 6 体育祭(降雨のため途中中止)
- 6.20 防災訓練
- 7. 3～7 期末考査
- 7.19 終業式
- 9. 1 始業式、防災講話
- 9. 5 宿題テスト(1・2年)
- 9.15～16 文化祭
- 9.29 創立80周年記念祝賀会
- 10.16～19 中間考査
- 10.23～24 学力テスト(3年)
- 11.5 開校記念日
- 11.20 学力テスト(1・2年)
- 12.6～12 期末考査
- 12.20 多目的コート完成
- 12.25 終業式
- 1. 8 始業式
- 2. 7 コーラス大会
- 2.13～16 修学旅行(2年)
- 3. 2 卒業式
- 3. 6～12 期末考査(1・2年)
- 3.25 修了式



平成 14 (2002) 年度・中野地区中高一貫 6 年制学校の設置が決定される

- 4. 8 始業式
- 4. 9 入学式
- 4.10 対面式、部活動紹介
- 4.25 定期健康診断
- 5. 1 生徒総会
- 5. 2 遠足
- 5.18 「父母と先生の会」総会
- 5.21～24 中間考査
- 5.30～31 学力テスト(3年)
- 5.31 学力テスト(2年)
- 6. 5 体育祭
- 6.19 避難訓練
- 7. 2～8 期末考査
- 7.19 終業式
- 9. 2 始業式
- 9. 5 宿題テスト(1・2年)
- 9.14～15 文化祭
- 10.15～18 中間考査
- 10.23～24 学力テスト(3年)
- 10.22～25 修学旅行(2年)
- 11. 5 開校記念日
- 11.19～20 学力テスト(1・2年)
- 12. 5～11 期末考査
- 12.25 終業式
- 1. 8 始業式
- 2. 6 コーラス大会
- 3. 4 卒業式
- 3. 5～11 期末考査(1・2年)
- 3.25 修了式



平成 15 (2003) 年度・二期制始まる

- 4. 7 始業式
- 4. 8 入学式
- 4. 9 対面式、部活動紹介
- 4.10 総合的な学習の時間オリエンテーション(1年)
- 5. 1 生徒総会
- 5. 2 遠足
- 5.15 定期健康診断
- 5.17 「父母と先生の会」総会
- 5.19～20 学力テスト(3年)
- 5.23 体育祭
- 6. 3～6 中間考査
- 6.21 学校見学会
- 7.18 全校集会
- 9. 1～5 期末考査
- 9. 5 防災訓練
- 9.11～12 学力テスト(3年)
- 9.20～21 文化祭
- 9.27 終業式、一日体験授業
- 10.2 後期始業
- 10.25 学校説明会
- 10.28～31 修学旅行(2年)
- 11. 5 開校記念日
- 11.21 学力テスト(1・2年)
- 12.4～10 中間考査
- 12.25 全校集会
- 2. 6 合唱祭
- 3. 3 卒業式
- 3. 8～12 期末考査(1・2年)
- 3.25 修了式



平成 16 (2004) 年度

- 4. 6 始業式
- 4. 7 入学式
- 4. 8 対面式、部活動紹介
- 4.13・20 総合的な学習の時間オリエンテーション(1・2年)
- 4.22 定期健康診断
- 4.30 生徒総会
- 5. 7 遠足
- 5.15 「父母と先生の会」総会
- 5.17～18 学力テスト(3年)
- 5.21 体育祭
- 6. 1～4 中間考査
- 6.19 学校見学会
- 7.20 全校集会
- 9. 1～6 期末考査
- 9. 6 防災訓練
- 9.18～19 文化祭
- 9.25 一日体験授業
- 9.29 終業式
- 10. 5 始業式
- 10.23 学校説明会
- 10.26～29 修学旅行(2年)
- 10.28～29 学力テスト(3年)
- 11. 5 開校記念日
- 11.13 学校説明会
- 11.17 学力テスト(1・2年)
- 12. 2～7 中間考査
- 12.24 全校集会
- 2. 2 合唱祭
- 3. 4 卒業式
- 3. 8～11 期末考査(1・2年)
- 3.14～15 学力テスト(1・2年)
- 3.25 修了式



平成 17 (2005) 年度

4. 6	前期始業式	3. 8 ~ 11	期末考査(1・2年)
4. 7	入学式	3.13 ~ 14	学力テスト(1・2年)
4. 8	対面式、部活動紹介	3.15 ~ 16	球技大会(1・2年)
4.21	定期健康診断	3・24	修了式
4.26 ~ 28	総合的な学習の時間 オリエンテーション(2年)		
4.30	生徒総会		
5. 2	遠足		
5.14	「父母と先生の会」総会		
5.20	体育祭		
5.27 ~ 28	学力テスト(3年)		
6. 1 ~ 6	中間考査		
7.11	学校見学会		
7.15	全校集会		
8.31	全校集会・防災訓練		
9. 1 ~ 6	期末考査		
9.18 ~ 19	文化祭		
9.29	前期終業式		
10. 2	後期始業式		
10.22	学校説明会・体験授業		
10.25 ~ 26	学力テスト(3年)		
10.25 ~ 28	修学旅行(2年)		
11. 5	開校記念日		
11.12	学校説明会・体験授業		
11.16	学力テスト(1・2年)		
12.1 ~ 6	中間考査		
12.20	全校集会		
2. 2	合唱祭		
3. 7	卒業式		



平成 18 (2006) 年度

4. 6	前期始業式	3.15 ~ 16	学力テスト(1年)
4. 7	入学式		球技大会(2年)
4.10	対面式、部活動紹介	3・19	安全教室
4.20	定期健康診断	3・20	修了式
5. 1	生徒総会		
5. 2	遠足		
5.13	「父母と先生の会」総会		
5.23	体育祭		
5.26 ~ 27	学力テスト(3年)		
6. 1 ~ 6	前期中間考査		
6. 7	避難訓練		
6.10	学校見学会		
7.14	全校集会		
8.31	全校集会・防災訓練		
9. 1 ~ 6	前期期末考査		
9.16 ~ 17	文化祭		
9.28	前期終業式		
10. 2	後期始業式		
10.14	学校説明会		
10.24 ~ 25	学力テスト(3年)		
11.5	開校記念日		
11.11	学校説明会		
11.15	学力テスト(1・2年)		
12. 4 ~ 7	後期中間考査		
12.21	全校集会		
1.16 ~ 19	修学旅行(2年)		
2.15	合唱祭		
3. 2 ~ 6	後期期末考査(1・2年)		
3. 8	卒業式		
3.12 ~ 13	学力テスト(2年)		
	球技大会(1年)		



平成 19 (2007) 年度

4. 6	前期始業式	2.12	合唱祭
4. 7	入学式	3. 1 ~ 5	期末考査(1・2年)
4. 9	対面式、部活動紹介	3. 7	卒業式
4.10	スタートテスト(1年)	3.10	映画教室(1年)
4.19	定期健康診断		卓球大会(2年)
5. 1	生徒総会	3.11	球技大会(2年)
	セーフティ教室	3.14	安全教室(1・2年)
5. 2	遠足	3.17 ~ 18	学力テスト(2年)
5.12	「父母と先生の会」総会		球技大会(1年)
5.23	体育祭	3・19	修了式
5.29 ~ 30	学力テスト(3年)		
6. 4	避難訓練		
6. 5 ~ 8	前期中間考査		
6. 9	学校見学会		
7. 6	学力テスト(1・2年)		
7.13	全校集会		
8.30	授業開始・防災講話		
8.31 ~ 9.4	前期期末考査		
9.15 ~ 16	文化祭		
9.28	前期終業式		
10. 2	後期開始		
10.18 ~ 19	学力テスト(3年)		
10.20	学校説明会		
11. 1	学力テスト(1年)		
11. 5	開校記念日		
11.10	学校説明会		
12. 4 ~ 7	中間考査		
12.21	全校集会		
1.16 ~ 19	修学旅行(2年)		



平成 20 (2008) 年度・中野地区中高一貫 6 年制学校開設準備室発足

4. 7	始業式	3. 6	卒業式
4. 8	入学式	3. 9	セーフティ教室
4. 9	対面式、部活動紹介	3.10 ~ 11	学力テスト(2年)
4.10	スタートテスト(1・2年)	3.12	防災体験(1年)
4.17	定期健康診断	3.16	学力テスト(1年)
5. 1	生徒総会		防災体験(2年)
	セーフティ教室	3・17	球技大会(1年)
5. 2	遠足	3・18	映画教室(1年)
5.10	「父母と先生の会」総会		球技大会(2年)
5.23	体育祭	3・19	修了式
6. 3 ~ 6	中間考査		
6.10 ~ 11	学力テスト(3年)		
6.14	学校見学会		
7.15	学力テスト(1・2年)		
7.18	全校集会		
8.28	授業開始・防災講話		
8.29 ~ 9.2	期末考査		
9.13 ~ 14	文化祭		
9.17 ~ 18	学力テスト(3年)		
9.25	前期終業式		
9.29	後期開始		
10.11	第1回学校説明会		
11. 5	開校記念日		
11. 7	学力テスト(1・2年)		
11. 8	第2回学校説明会		
12. 2 ~ 5	中間考査		
12.19	全校集会		
1. 8	授業開始		
1.14 ~ 17	修学旅行(2年)		
2.13	合唱祭		
3. 2 ~ 5	期末考査(1・2年)		



平成 21 (2009) 年度

4. 6	始業式	3. 2～5	期末考査(1・2年)
4. 7	入学式	3. 6	卒業式
4. 8	対面式、部活動紹介	3.11	学力テスト(2年)
4. 9	スタートテスト(1・2年)	3.12	スタートテスト(1年)
4.23	定期健康診断	3.16	映画教室(1年)
4.30	生徒総会	3.17	球技大会(1年)
	セーフティ教室	3.18	球技大会(2年)
5. 1	遠足	3.19	修了式
5. 9	「父母と先生の会」総会		
5.22	体育祭		
6. 2～5	中間考査		
6. 9～10	学力テスト(3年)		
6.13	学校見学会		
7.14	学力テスト(1・2年)		
7.15	全校集会		
8.28	授業開始・防災講話		
8.29～9.2	期末考査		
9.12～13	文化祭		
9.24～25	学力テスト(3年)		
9.30	終業式		
10. 5	後期開始		
10.10	学校説明会		
11. 5	開校記念日		
11. 6	学力テスト(1・2年)		
11. 7	学校説明会		
12. 3～8	中間考査		
12.22	全校集会		
1.11～14	修学旅行(2年)		
2. 4	学力テスト(1・2年)		
2.12	合唱祭		



平成 22 (2010) 年度・附属中学校開校

4. 6	始業式	10.19～22	第3回定期考査(高)
4. 7	入学式		(中10.21～22)
4. 8	対面式、新入生歓迎会	11. 4	学力テスト(高1・2年)
4. 9	スタートテスト(高1・2年)	11. 5	開校記念日
	学力テスト(中)	11. 9	中学開校記念式典
			高校創立90周年記念式典
4.22	定期健康診断		
4.28	生徒総会		
4.30	遠足(高)		
5. 8	「父母と先生の会」総会		
5.24～28	第1回定期考査(高)		
	(中5.27～28)		
5.26	避難訓練		
6. 4	体育祭		
6.10～11	学力テスト(高3年)		
6.12	学校見学会		
7. 7～10	第2回定期考査(高)		
	(中7.7～9)		
7.12	学力テスト(高1・2年)		
7.16	集会(高)(中7.20)		
7.21～23	宿泊学習(中)		
8.25～27	英語短期集中講座		
9. 1	授業開始・防災講話		
	総合考査(高1・2年・中)		
9.11～12	文化祭		
9.17～18	学力テスト(高3年)		
9.30	前期終業式		
10. 4	後期授業開始		
10. 7～8	学力テスト(高3年)		
10. 9	学校説明会		



資料編



☆印は定時制課程関係

- 大正 8.12.27 東京府立第五高等女学校設立認可(修業年限 5 ヵ年、定員500名)
9. 3.31 白石正邦氏初代学校長に就任
9. 4.18 東京府立第五高等女学校開校、第1、2学年各 100名入学認可
9. 5.10 東京府豊多摩郡淀橋町字角筈879番地に新校舎一部落成、移転
- 9.11. 5 開校記念式典挙行
10. 4. 1 定員750名に増加
11. 4. 1 定員1,000名に増加
12. 5.23 新校舎落成
13. 3.24 本科第1回卒業証書授与式挙行
14. 4. 1 補修科設置(修業年限1年定員50名)
- 昭和 2. 4. 1 補修科廃止、家事専攻科設置(修業年限3 ヵ年、定員120名)
5. 3.22 専攻科第1回卒業式挙行
14. 3.31 学校長白石正邦氏依願退職、東京府立第七高等女学校長兼教諭伊藤清一氏第二代学校長兼教諭に就任
- ☆ 15. 2.12 文部省告示に以て東京府立第五高等女学校夜学校設立認可
- ☆ 15. 2.17 東京府立第五高等女学校伊藤清一氏夜学校長を兼任
- ☆ 15. 4. 1 東京府立第五高等女学校夜学校開校
- ☆ 16. 4. 1 夜学校を東京府立昭徳女学校と校名改称
17. 4.15 学校長伊藤清一氏依願退職、東京府青山師範学校教諭堀江時三氏第三代学校長に就任
- ☆ 18. 3.24 東京府立昭徳女学校第1回卒業式挙行
- ☆ 18. 3.31 東京府立昭徳女学校廃止
- ☆ 18. 4. 1 東京府立第五高等女学校第二部と改称
18. 7. 1 都制実施により東京都立第五高等女学校と改称
- ☆ 18. 7. 1 第二部を東京都立第五高等女学校第二部と改称
20. 4.14 戦災により校舎全焼
20. 4.21 四谷第五国民学校校舎の一部を借用して授業開始
21. 4. 1 東京都立四谷高等家政女学校が本校に合併
21. 5.15 四谷第七小学校に移転
23. 4. 1 学制の改革により高等学校となり、東京都立第五女子新制高等学校と校名改称し、高等女学校三学年を以て併設中学校を編成
- ☆ 23. 4. 1 第二部を東京都立第五女子新制高等学校定時制課程と改称し高井戸分校を設置
23. 5.20 中野区富士見町9に新校舎落成・移転
24. 2.28 全日制父母と先生の会設立
- ☆ 24. 3.23 定時制高等学校第1回卒業式。第二部第4回(最終)卒業式挙行
24. 3.24 全日制高等学校第1回、高等女学校第27回(最終)、専攻科第20回(最終)、併合中学校第2回(最終)卒業式挙行
- ☆ 24.11. 3 定時制父母と先生の会設立
24. 6.17 学校長堀江時三氏深川女子高等学校長に転任、都立武蔵丘高等学校長手塚昇氏第四代学校長に就任
25. 1.28 東京都立富士高等学校と校名改称
- ☆昭和25. 1.28 東京都立富士高等学校定時制課程と改称し、高井戸分校を同校定時制課程高井戸分校と改称
25. 3.22 第五高等女学校第二部第5回(最終)卒業式挙行
- ☆ 25. 3.24 第五高等女学校専攻科第21回(最終)卒業式挙行
25. 4. 8 全日制第1学年250名(男子100名、女子150名)入学・男女共学開始
- ☆ 25. 9. 1 高井戸分校独立して、東京都立松原高等学校定時制課程となる。
- 25.11. 5 全日制創立三十周年、定時制創立十周年記念式典挙行
26. 4. 7 全日制第1学年300名(男子100名、女子200名)入学・生徒定員900名になる。
27. 6.14 新校舎(三教室兼講堂)落成
30. 6.30 プール落成
30. 9.30 学校長手塚氏依願退職、東京都立大森高等学校 長浅野時一郎氏第五代学校長に就任
- 30.11. 5 全日制創立三十五周年、定時制創立十五周年記念式典挙行
- 31.10.27 校舎改築・後援会結成
33. 3.31 鉄筋校舎第1期工事完了(3階建延1,990.08㎡)
33. 4.25 上記竣工落成式挙行
34. 3.31 鉄筋校舎第2期工事完了(3階建延674.38㎡)
35. 4. 7 全日制第1学年400名(男子150名、女子250名)入学・男女各50名定員増
35. 4.30 鉄筋校舎第三期工事完了(4階建延1,146.18㎡)
36. 4.15 鉄筋校舎第四期工事並びに追加工事完了(4階建延2,785.87㎡)
36. 5.19 鉄筋校舎落成。全日制創立四十周年、定時制創立二十周年記念式典挙行
- ☆ 36. 7. 5 定時制全校生徒に給食開始
37. 4. 9 全日制第1学年411名(男子160名、女子251名)入学し、全学級数24となる。
38. 4. 1 学校長浅野時一郎氏病気により休職、東京都立広尾高等学校長井尾武雄氏第六代学校長に就任
38. 4. 8 全日制第1学年臨時1学級増により454名(男子165名、女子289名)入学し、全学級数25となる。
38. 7.18 校外施設として山梨県清里に学校寮完成(木造一部2階建241.4㎡)
39. 3.31 学校長浅野時一郎氏復職し、依願退職。校庭照明設備完成
39. 4. 8 全日制1学級増により全学級数26となる。
40. 2.19 全日制学級数増に伴う増築三教室落成

- (延578.58㎡)
40. 3.31 擁壁工事完了
40. 4. 1 学校長長井尾武雄氏東京都立戸山高等学校長に就任、東京都教育委員会体育課長野沢要助氏第七代学校長に就任
40. 4. 8 全日制1学級増により全学級数27となる。
42. 4. 8 学校群制度の実施により東京都立西高等学校と第32群に編成され同制度発足、第1学年440名(男子166名、女子274名)入学
42. 6. 1 所在地住居表示変更により中野区弥生町5丁目21番1号となる。
43. 4. 1 学校長野沢要助氏依願退職。東京都立赤城台高等学校長田村馨氏第八代学校長に就任
- 43.12.26 別棟生徒会館完成(9月)都知事より引渡される(204.40㎡)
45. 6. 6 体育館完成(5月)都知事より引渡される(919.25㎡)全日制創立五十周年、新制高校発足二十周年、定時制創立三十周年、体育館落成記念式典挙行
48. 4. 1 学校長田村馨氏依願退職。東京都立赤城台高等学校長小山喜平氏第九代学校長に就任
48. 7.15 清里寮増築工事完了 64.6㎡(合計306㎡)
49. 5. 8 グランド改修工事完了
51. 4. 1 学校長小山喜平氏依願退職。東京都立鷺宮高等学校長原晋氏第十代学校長に就任
53. 4. 1 学校長原晋氏東京都立戸山高等学校長に就任。東京都立杉並高等学校長重田一氏第十一代学校長に就任
- 昭和55. 4. 9 全日制第1学年臨時一学級増と臨時学級定員増により定員470名10学級編成となる。入学者454名(男子223名、女子231名)
55. 9.28 全日制創立六十周年、定時制創立四十周年記念式典挙行
56. 3.31 体育附属室完成
56. 3.31 学校長重田一氏退職
56. 4. 1 東京都立松原高等学校長道廣史行氏第十二代学校長に就任
57. 4. 1 学校群制度廃止、第3学区はA、Bの2グループに編成される。
57. 8.16 校庭改修工事完了
58. 4. 9 全日制第1学年臨時一学級増と臨時学級定員増により定員470名10学級編成となる。入学者484名(男子250名、女子234名)
60. 4. 1 学校警備業務及び定時制給食業務が委託となる。
61. 3.31 学校長道廣史行氏退職
61. 4. 1 東京都教育庁指導部指導企画課長高橋正之氏第十三代学校長に就任
62. 4. 7 富士高校全面改築に関する委員会発足し、改築計画はじまる。
62. 4. 9 全日制第1学年臨時1学級増と臨時学級定員増により定員480名10学級編成となる。入学者480名(男子235名、女子245名)
63. 3. 3 校庭における文化財発掘調査はじまる。
- 63.12. 2 全面改築工事はじまる。
- 平成元. 1.10 文化財発掘終了
2. 3.29 全面改築工事による校舎、体育館、格技棟、ごみ収納庫・焼却炉完成、移転
2. 4.10 外構工事はじまる。
- 2.12. 3 清里寮閉寮式
3. 3.31 学校長高橋正之氏退職
3. 4. 1 東京都教育庁人事部職員課長山本明氏第十四代学校長に就任
3. 5. 8 外構工事によるグラウンド・テニスコート・駐輪場・屋外便所・通用門・薬品庫等改築工事完了
- 3.11. 2 全日制創立七十周年、定時制創立五十周年記念式典挙行
6. 3.31 学校長山本明氏退職
6. 4. 1 東京都立武蔵村山高等学校長岩崎芳敬氏第十五代学校長に就任
7. 4.10 全日制第1学年より学年進行で定員320名8学級編成となる。
9. 3.31 学校長岩崎芳敬氏退職
9. 4. 1 東京都立八王子北高等学校長氏家武彦氏第十六代学校長に就任。
9. 4. 9 8学級編成完了
- 11.11. 5 体育館改築工事はじまる。
12. 3.31 学校長氏家武彦氏退職
12. 4. 1 東京都立蒲田高等学校長高井宣昭氏第十七代学校長に就任
13. 2.28 体育館完成(1月)都知事より引渡される。(1524.60㎡)
13. 9.29 全日制創立八十周年・体育館落成記念祝賀会挙行
- 13.12.20 多目的コート完成(2,436㎡)
- 14.10 「都立高校改革推進計画・新たな実施計画」中野地区中高一貫6年制学校の設置が決定される。
15. 3.31 学校長高井宣昭氏退職
15. 4. 1 東京都立玉川高等学校長佐治恒孝氏第十八代学校長に就任
17. 4. 1 学校長佐治恒孝氏都立晴海総合高等学校長として異動
17. 4. 1 東京都立第四商業高等学校長藤井正俊氏第十九代学校長に就任
20. 4. 1 中野地区中高一貫6年制学校開設準備室発足。一般技能職の業務が民間委託となる。
- ☆20. 3. 6 東京都立富士高等学校定時制課程閉課程 69年の歴史を閉じる
22. 3.31 学校長藤井正俊氏退職
22. 4. 1 東京都立大山高等学校長久永哲雄氏第二十代学校長に就任
東京都立富士高等学校附属中学校開校
初代学校長に久永哲雄氏就任
高等学校 第1学年 定員200名で5学級となる
附属中学校 第1学年 定員120名 3学級入学(男子54名 女子66名)

●高校全日制

職	教科	氏名	着任年度	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	
教諭	外語	片岡 貴志子	H9														
		佐藤 康子	H10														
		保坂 英文	H10														
		伊勢 眞理	H12														
		杉本 秀夫	H13														
		鈴木 理恵	H13												職	中	
		北見 英二	H15														
		塩崎 京子	H16														
		菅田 眞代	H16														
		高橋 文子	H16														
		牛嶋 圓江	H17														
		宮治 和夫	H17														
		西尾 信子	H19														
		大石 博	H20														
	残間 紀美子	H20															
	抱山 咲子	H21															
	大和田 浩次	H22															
	常見 聡	H22															
	若松 孝子	H22															
	家庭	飯坂 美枝子	H3														
		小澤 容子	H6														
		高橋 靖子	H12														
		寺江 弘子	H12														
		前原 和子	H17														
矢野 紀子		H19															
情報	小林 直樹	H17													職	中	
	河原井 伸和	H21															
養護教諭	片江 美智子	H5															
	戸田 尋子	H15															
	関口 久恵	H20															
実習助手	伏見 忠	H10															
	河田 修二	H17															
	齋藤 富久子	H21															
職員	国語	市村 和久	H6														
	化学	内木場 弘行	H6														
	公民	齋藤 賢	H9														
	国語	有賀 嘉寿子	H10														
	国語	村山 幸江	H10														
	地歴	久保 靖彦	H10														
	化学	江口 華子	H10														
	英語	橋本 雅	H10														
	英語	生山 文勇	H10														
	司書	佐藤 隆也	H14														
	国語	清水 久美子	H15														
	地歴	伊藤 満智子	H15														
	公民	成瀬 功	H15														
	理科	桂木 悠美子	H15														
	英語	瀬谷 三郎	H15														
	英語	長谷川 圭一	H16														
	教育相談	海津 忠幸	H16														
国語	勝俣 史子	H17															
地歴	赤羽 正光	H17															
地歴	上村 淑子	H19															
日勤・非常勤講師	国語	勝島 公司	H21														
	数学	吉野 清一	H21														
	英語	木村 禮子	H21														
	英語	荒川 幸雄	H21														
	化学	佐竹 靖庸	H22														
	理科	佐々木 大士															
	芸術	花井 由雄															
	情報	大澤 伸一															
英語	Peter Möller																

●中学校

職	教科	氏名	着任年度	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
統括校長		久永 哲雄	H22													
副校長		高澤 功	H22													
主幹	国語	造作 聡美	H22													
	英語	鈴木 理恵	H22													
教諭	国語	喜代田 智子	H22													
	社会	木田 秀人	H22													
	数学	小林 直樹	H22													
		藤原 善郎	H22													
	理科	小岩 寿之	H22													
		後藤 洋士	H22													
体育	岸本 一夫	H22														
	照井 順子	H22														
英語	岩越 司	H22														
養護教諭		田中 美緒	H22													
非常勤	読書	長藤 正嗣	H22													
	英語	Peter Möller	H22													

●事務職員在籍一覧

事務長	牧野 吉彦	H10														
	榎本 雄治	H13														
	小澤 めぐみ	H16														
経営企画室長	宇宿 信吉	H18														
	美濃又 清志	H20														
経営企画課長	松下 雅子	H21														
	高松 良員	H22														
事務	榎原 つが子	H5														
	大矢 和男	H8														
	城石 美江	H8														
	峯岸 君子	H9														
	石田 望	H9														
	大矢 友美	H10														
	青木 栄男	H10														
	加藤 ヒサコ	H11														
	高田 比呂子	H11														
	門井 淳	H11														
	高橋 収	H11														
	長土呂 滋	H12														
	太田 尚子	H12														
	小林 澄子	H12														
	川島 寿也	H13														
	大久保 美和	H13														
	熊谷 直一	H14														
	三井 千寿香	H14														
	小林 栄一	H14														
	堀内 隆	H15														
	佐藤 哲也	H15														
	菅野 久美子	H15														
	薄井 美由樹	H16														
	佐藤 久栄	H16														
	池田 紀代美	H16														
	外西 友紀	H16														
宮田 由紀代	H17															
藤嶋 慎一郎	H17															
寺島 玲子	H18															
上田 俊夫	H18															
伊藤 真弓	H19															
高仲 秀和	H19															
横堀 幸男	H20															
藤井 啓子	H20															
山本 信夫	H21															
小松 亜貴子	H22															

●高校定時制

職・教科	氏名	着任 年度	H 10	H 11	H 12	H 13	H 14	H 15	H 16	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21
校長	氏家 武彦	H9												
	高井 宣昭	H12												
	佐治 恒孝	H15												
	藤井 正俊	H17												
教頭	前園 実	H7												
	小林 三代次	H11												
副校長	清野 勝幸	H15												
	宮澤 良美	H20												
国語	飯田 元	H3												
	森 明彦	H10												
	竹沢 朱実	H12												
	小林 清香	H14												
	内田 孝人	H18												
社会	飯島 雅行	S63												
	高沢 茂	H1												
	森 宏太郎	H10												
	印南 明彦	H15												
	黒柳 修一	H17												
数学	愛甲 哲郎	H8												
	小松 進	H7												
	菊池 敬一	H17												
理科	芥川 治子	H1												
	永井 淳	H1												
	伊藤 嘉記	H8												
	渡辺 正信	H17												
保健体育	前畑 光男	H4												
	奥田 省三	H10												
	稲毛 朗	H14												
外国語	近藤 紀美代	H8												
	高村 徳生	H9												
	菊池 眞瑞	H18												
養護	川島 裕美子	H7												
	仙田 素子	H12												
	佐藤 淳子	H16												
嘱託員	福田 昌明	H19												
事務長	牧野 吉彦	H10												
	榎本 雄治	H13												
	小澤 めぐみ	H16												
経営企画室長	宇宿 信吉	H18												
	美濃又 清志	H20												
経営企画課長	松下 雅子	H21												
事務	石田 望	H7												
	高田 比呂子	H9												
司書	番場 由紀子	H9												
	佐藤 久栄	H16												
栄養士	加藤 純子	H10												
	平本 紀代子	H11												
技能	高橋 収	H8												

写真協力

「おやじの会」

富士高校写真部 他

表紙（屋上からの富士山） 小川政之（地学）撮影

東京都立富士高等学校・東京都立富士高等学校附属中学校

創立 90 周年・中学校開校記念誌

2010.11.9

発行 東京都立富士高等学校・東京都立富士高等学校附属中学校

〒164-0013 東京都中野区弥生町5丁目21番地1号

電話 (03)3382-0601

FAX(03)3382-8224

印刷 正和商事株式会社
